

3480
351

特19

827

演說
討論
文章

記事論說種本全
附滑稽小說種本

東京 諸大家先生校閱
同 吉田正太郎編輯

明治十八年二月出版

高林氏藏版

076670-000-9

特19-827

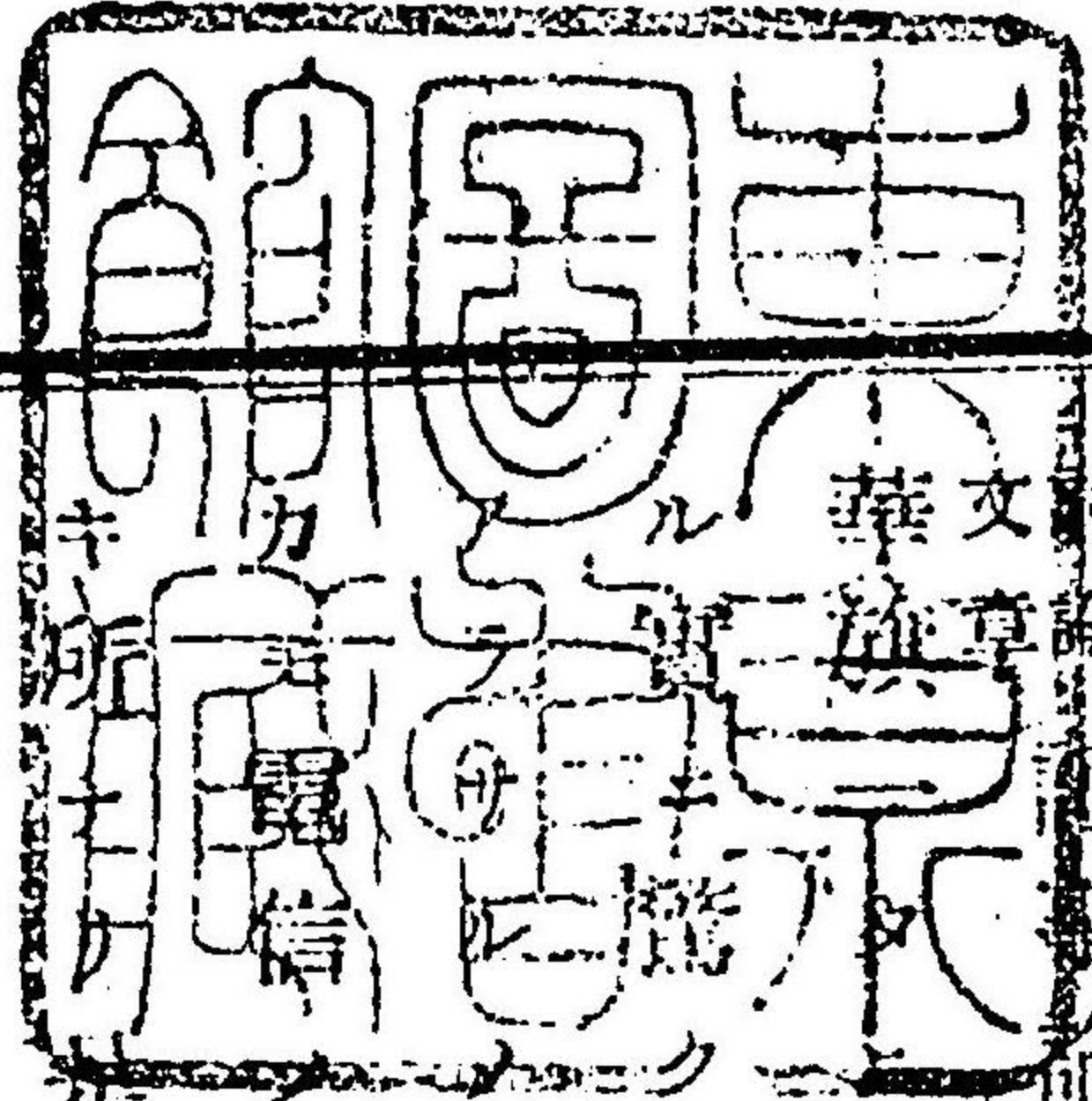
演說討論文章記事論說種本

吉田 正太郎 / 編

M18.2

DAB-0022





演說記事論說種本

浦賀港ニ到着セシヨリ以來文物ノ開ケタ
ニ堪ヘタル者アリ日本開闢以來未タ嘗テ
盛時ナリ且ツ夫レ文明進歩ノ迅速ナル恰
飛行スルガ如クニシテ古來外國ニ其例ナ
キ所ナリ是ヲ以テ苟モ船ノ通スル處車ノ達スル處人
足ノ及ブ處演說討論ノ會アラザルナク又東西南北ノ
人民既ニ數歲ニ至レバ其男子タルト女子タルヲ問ハ
ズ皆ナ文章ヲ學ブテ急ナリ爲メニ殆ンド紙價ヲ騰貴
セシムルノ情況アリ嚙々亦盛大ナル時勢ト謂フ可シ

然レモ開港ノ日尙ホ淺キヲ以テ偶々老成ノ者ナキニ
非ラザレモ概シテ幼穉ノ姿ナリ而シテ其幼穉者中或
ハ言ヲ爲ス者アリ曰ク東都ノ記者辨士彼レガ如キハ
日々卓絶ノ論說ヲ草シ或ハ之ヲ演スルモ少シモ種ノ
體タル患ナキ者ノ如シ然ルニ去テ我々ノ情況ヲ顧ミ
ルニ最初ヨリシテ既ニ其種ニ乏シ是レ畢竟彼ノ輩ハ
善キ種アルコトナラン我々如何カシテ其種ヲ得ント欲
スレモ其之ヲ得ルノ道ナキハ是非モナキ次第ナリト
是レ予輩ノ想像ヲ以テ記セル者ノ如シト雖モ決シテ
然ラズ予輩ハ此ノ如キ言語ノ吾ガ耳朵ニ達セル者既

ニ數十百回ノ多キニ及ベリ又或ハ現ニ其種ヲ教ヘヨ
ト乞ハレシコトアリ成程日々論說ヲ草シ或ハ之ヲ演シ
テ其種ノ盡キザルハ或ハ其善キ種ノアリテ存スル者
ナル可シト思フモ亦無理ナラヌ事ナリ然レモ敢テ彼
ノ手品遣ノ如キ種アルニ非ラズ唯ダ多年ノ讀書ト深
ク工夫ヲ廻ラストノ間接ナル二種アルニ過ギザルナ
リ斯邁爾斯氏曰ク甲ノ能スルコトハ乙モ亦之ヲ能ス可
シ甲ノ能スル人ノ方法ヲ用ユレバ則チ乙モ亦之レト
同一ノ効騷ヲ得可シト然ラバ則チ後進ノ士モ亦多年
ノ讀書ト深ク工夫ヲ廻ラストノ二事ヲ務ムレバ必ズ

其種ノ乏シキヲ患フルヲナシ是レ即チ其種ナリ然リ
ト雖是レ其本法ニシテ容易ニ得可キ者ナラズ何ゾ
其近道ノアリテ存スル者ナカラシカ已ムヲ得ザレバ
茲ニ一種アリ則チ本書是レナリ青年後進ノ士若シ本
書ヲ携帯セバ或ハ演説討論及ビ文章ノ種トナランカ
聊カ一言ノ序ヲ述ブルヲ爾リ

明治十八年二月

著者識

演說
討論
文章

記事論說種本

凡例

一本書ハ東京諸大家先生ノ校閱ヲ經タル者ナリ故ニ
一々其姓名ヲ記ス可キ者ナレト之ヲ記スルニ於テ
ハ大ニ繁雜ヲ生ズルノ恐レアルヲ以テ已ムヲ得ズ
之ヲ略ス乞フ讀者之ヲ諒セヨ
一本書ハ口舌ニ屬スル者ト文章ニ屬スル者トヲ問ハ
ズ記事ト論說トヲ論セス又政談學術ヲ異ニセズ滑
稽小説ヲ別タズ苟モ學問文事ニ屬スル者ハ一モ遺
漏ナク悉皆網羅シ青年後進者ノ爲メ其種ニ供スル

者ナリ故ニ少シク表題ノ冗長ニ渉ルノ嫌ヒアルモ
已ムナ得ズ斯クハ命ゼリ

一本書ハ演説討論文章ノ三編ニ別テル者ナリト雖
皆ナ均シク思想ヲ發表スル者ナレバ其原トハ同一
ノ思想ヨリ出ヅル者ナリ故ニ讀者ノ適宜ニテ或ハ
演説編ノ論ヲ文章ニ改ムルモ亦可ナリ或ハ文章編
ノ説ヲ演説ニ直スモ亦可ナリ唯ダ少シク其語氣ヲ
異ニスルノミ

一本書中記事論説ノ二者ハ片假名ヲ用ヒ滑稽小説ノ
二者ハ平假名ヲ用フ而シテ滑稽ト小説トハ同一様

ノ事ニシテ敢テ分ツ可キノ區別ナキ者ノ如シト雖
モ著者ノ區別ハ其奇説ニ属スル者ヲ以テ滑稽ト爲
シ其珍史ニ属スル者ヲ以テ小説ト爲セリ
一本書ハ種本ト命ズルガ故ニ其章句簡短ニシテ言ヒ
盡サハル者アリ隔靴抓癢ノ歎アル者ノ如シト雖モ
是レ種タル者ノ常情ナリ之レニ花ヲ咲カセテ精細
緻密ニ論ズルハ此種ヲ蒔テ耕スノ讀者ニ任ズ
一本書ハ十ノ八九マテ予輩一家ヲ新説ヲ記シタレモ
他人ノ論説ニシテ卓絶ナル者偶々亦之レニ載セタ
ル者アリ

一書中右傍單柱即チ一ハ歐米ノ人名ニシテ同ジク右傍雙柱即チ一ハ歐米ノ地名ナリ但シ日本支那ノ人地名ニハ敢テ柱線ヲ施サズ是レ一見直チニ其人地名タルヲ知リ得ルヲ以テナリ而シテ其歐米ノ人地名中英佛ノ如キ平常見慣レタル者ハ敢テ傍訓ヲ施サズト雖モ平常見慣レザル者ハ一章中ノ始メ一個ノ左ニ傍訓ヲ施セリ

一書中◎ヲ施セシ者ハ大主眼ニシテ○ヲ施セシ者ハ中主眼、ヲ施セシ者ハ小主眼ナリ

演說
論說
文章

記事論說種本目錄

●第一論 演說

○第一章 論說

◎第一節 政談

- 人民幼稚穉ナレバ從テ政府モ亦幼稚ナリ
- 立法行政司法三權論
- 黃金世界ハ果シテ政府ヲ要セザル乎
- 保守主義ヲ駁ス
- 政黨論
- 刑法ノ寛大ニ過ヅルハ良民ノ自由ヲ滅殺ス
- 各政體中單絶ニ其性質ヲ保ツ者一モナシ

◎第二節 學術

○目錄

- 自殺ハ怯ノ一字ニ原ス
- 道德ト自由トハ其原則一ナリ
- 原因ト結果ノ關係
- 拿破崙^{ナポレオン}ノ一言ヲ評ス
- 文明論
- 案外論
- 作者自ラ之ヲ知ラズ
- 自費ノ心ハ成功ノ元素ナリ
- 時機論
- 學成ラザルヲ耻ヅ用ヒラレザルヲ耻ヂズ
- 人心論
- 是非利害ノ辨

○第二章 滑稽

- 義理と猿鼻禪しや欠かれない
- ホンニ茶菓子た話
- 釋迦の説方は閻魔の笑ふ所なり
- 輿論の解
- 交際は間接と利ありて直接と害あり

●第二編 討論

○第一章 政論

- 主權果シテ何レニ在ル乎
- 一局議院ト二局議院ノ可否
- 民權ハ人民ノ進取物ナルカ將タ政府ノ授與物ナルカ

- 普通選舉ト制限選舉ノ可否
- 記名投票ト無記名投票ノ可否

○第二章 學術

- 探理論ト探蹟論トハ果シテ孰レカ可ナルカ
- 男女ハ同權ナルカ將タ不同權ナルカ
- 實利道理兩主義ノ可否
- 宗教ハ社會ニ利アルカ將タ害アルカ
- 自由教育ト干涉教育ノ利害
- 性ハ善ナルカ將タ惡ナルカ

●第三編 文章

○第一章 記事

◎第一節 史傳

- 豊臣秀吉、鎌倉ニ遊ンテ源賴朝ノ塑像ヲ觀ル
- 上杉謙信、武田ハ義使ヲ送ル
- 本多重次ノ慣言并ニ徳川家康ノ大度
- 鮑叔能ノ管仲ヲ知ル
- 張儀舌尙ホ在リ
- 拿破崙一世壯士ニ遇フ
ナポレオン
- ◎第二節 景記
- 地球圖ヲ觀ルノ記
- 東京ノ記
- 第二章 論說
- ◎第一節 政事
- 天下終ニ公平ノ政治ナシ

- 人民ニ適當スル政體
- 代議士ハ高尚ノ人物ニ非ラズ
- 立法者ハ非常ノ人物ナラザル可ラズ
- 法律ハ時勢ノ變遷ニ從テ變更セザル可ラズ

◎ 第二節

- 進化ノカハ弱シ人間ノカハ強シ
- 真理ヲ求ムル者ハ舊來ノ僻見ヲ去レ
- 甲越ノ戦争果シテ勝敗ナキ乎
- 大事ノ成功ハ不幸敗事ノ後ニ在リ
- 事物ノ定則ヲ知ルノ法

◎ 第三章 滑稽

- 脚氣のマシナイ

- 禁酒の妙法
- 老妓の頓智

◎ 第四章 小説

- 肝が潰ぶれて五坐なく候
- 曾呂利々々々新左衛門々々々々
- 一休和尚の妙智
- 慘酷もあれ又笑止千萬もあれ
- 人猿の戦争
- 欣喜極て驚ル

演説論章
 記事論說種本目錄 終

演說
論說
文章

記事論說種本

附滑稽小説種本

東京諸大家先生閱

●第一編 演說

○第一章 論說

◎第一節 政談

○人民幼稚穉ナレバ從テ政府モ亦幼稚ナリ

諸君ヨ諸君、諸君モ亦既ニ了知セラシム、ガ如ク社會ノ通論
ニ曰ク人民幼稚穉ナル時ハ姑ク立法權ヲ政府ニ委託ス可シ
トノ事アリ斯ハ果シテ然ラザル可ラザルカ予輩ハ少シク
疑フ所ノ者アリ何ツヤ其レ此說ヲ吐ク者ハ必ズ人民幼稚
ナル時モ政府ハ既ニ成長セリト云フトテ證セザル可ラザ
ルノ論法ナリ若シ果シテ之ヲ證スルコトヲ得バ或ハ人民幼

穉ナル時ニ限リ其立法權ヲ政府ニ委託スルモ亦可ナラン
ト雖世世人絶テ之ヲ證スル者ナシ嗚呼社會ノ事實固ヨリ
然ル者ナシ其之ヲ證スル者ナキ亦宜ナル哉夫レ政府ハ果
シテ如何ナル者ナルカ其國土ニ於テ其相伍スル所ノ國民
ト同一其文學ニ養成セラレ同一其古傳ニ薰陶セラレ又其
同一習慣風俗ニ呼吸スル者ナレバ其智愚ハ正シク人民ハ
智愚ト同等ノ地位ニ在リテ存スルナリ故ニ人民ニシテ其
智識幼穉ナレバ則チ政府ノ智識モ亦幼穉ナルヲ明カナリ
若シ夫レ政府ニシテ其智識成長センカ然レバ人民ノ智識
モ亦既ニ成長セリ豈ニ其レ政府ノニ成長シテ人民ノ幼穉
ナル事アラシヤ予輩史ニ由テ之ヲ見ルニ人民成長シテ政
府幼穉ナルヲ或ハ之レアリ然レモ政府成長シテ人民幼穉

ナルヲハ決シテ之レアラザルナリ去レバ人民ニシテ其知
識幼穉ナレバ從テ政府ノ知識モ亦幼穉ナルヲ亦疑フ可ラ
ザルノ事實ナリ既ニ政府モ人民モ同シク幼穉ナリトセバ
立法權ヲ政府ニ委託シテ二三宰相ノ意見ヲ以テ制定シタ
ル法律ト衆民ノ撰舉シタル一國代議士ノ熟議討論ノ上決
定シタル法律トハ孰レカ可ナルヤト斯ク論シ來ラバ諸君
ハ始メテ疑ヲ生シ違カニ以テ夫ノ人民幼穉ナル時ハ姑ク
立法權ヲ政府ニ委託ス可シトノ說ヲ贊成スルヲ能ハザル
可シ嗚呼社會ノ通論モ亦違カニ信ズ可ラザルナリ(ヒヤヒ
ヤ大ヒヤ拍手喝采ノ聲恰モ雷ノ如シ)
○立法行政司法三權論
諸君ヨ諸君諸君ハ夫ノ立法行政司法ノ三權ハ鼎立ナラザ

ル可ラザル者ト信ズルカ予輩ハ鼎立ナラザル者ト信ズル
ナリ元來政府ハ即チ勢府ニシテ威權アル者ナリ此威權ア
ルヲ以テ政府ノ職務ヲ取扱フコトヲ得可シ若シ夫レ此威權
ナカラシカ然ラバ政府ハ其職務ヲ取扱フコト能ハズ故ニ一
部ノ人民ヲ以テ政府ニ比スレバ其權政府ニ重クシテ人民
ニ輕キヲ見ル可シ是レ政府ノ政府タル所以ニシテ固ヨリ
怪ムニ足ラザルナリ然リト雖モ一步ヲ進メテ闔國人民全
體ヲ以テ政府ニ比スレバ如何ニ政府ハ勢府ノ性質ヲ以テ
成立スル者ト雖モ其權勢人民ノ上ニ踰ユ可ラズ必ズヤ政
府人民同權ヲラザル可ラザルナリ此義敢テ喋々ノ辨ヲ費
サズルモ諸君既ニ其然ラザル可ラザルヲ知ル可シ而シテ
專制政治ハ別事ニシテ立憲政治ニ於テハ行政司法ノ二府

ハ政府ノ手ニ在リテ立法ノ一府ハ人民ノ手ニ在リ去レバ
右三府ヨシテ皆ナ同權ヲラシメバ既ニ政府ノ權ハ人民ノ
權ニ倍スト謂フ可キナリ何トナレバ三權ヲシテ同權ヲラ
シメバ政府ハ其二種ヲ併有シテ人民ハ唯ダ一權ヲ有スル
ニ止マルヲ以テ人民ノ權ハ正ニ政府ノ權ノ半バナルノ割
合ナレバナリ故ニ政府ノ權ト人民ノ權ヲ同權ヲラシメ
ニハ行政司法ノ二權ハ各々立法權ノ半權ニシテ二權ヲ合
セテ始メテ立法權ト同權ヲラシメザル可ラザルナリ然ラ
ザレバ政府ト人民ト同權タルノ實ヲ失スルナリ然ラバ假
令數ハ三個ニモセヨ之ヲ名ツケ鼎立トハ謂フ可ラザルナ
リ何トナレバ鼎足ハ三個皆ナ同量ナルモ立法行政司法ノ
三權ハ皆ナ同權ヲラズ立法權ハ行政權若クハ司法權ノ倍

重ナルヲ以テナリ彼ノ英國ガ駭々乎トシテ文明ノ美域ニ
 進歩シ嘗テ一日モ淹滞セシメナキハ是レ即チ立法權ノ重
 クシテ行政司法二權ヲ合セタル者ト同權タルノ然ラシム
 ル所ナルニ非ラズヤ故ニ曰ク立法行政司法ハ三權ハ鼎立
 ナラズト(ヒヤ)

○黄金世界ハ果シテ政府ヲ要セザル乎
 諸君ヨ諸君諸君モ既ニ知ラル、如ク黄金世界ニ政府ナシ
 トハ天下ノ通論ナリ諸君モ亦此説ニ同意セラル、者ナラ
 ノ(時ニ聽衆中一人聲ヲ放ツテ曰ク然リ)成程果シテ然ラ
 然レモ予輩獨リ此説ニ同意スルヲ能ハズ乞フ其所以ヲ辨
 セン夫レ黄金ニハ惡人ナキカ曰ク然ラソ然ラバ則チ惡人
 アリテ始メテ其用アル司法府ハ黄金世界ノ無用物ナル可

シト雖モ立法府及ヒ行政府ハ獨リ惡人ノ爲メニ設ケタル
 ニ非ラズ即チ社會ノ事務ヲ整理スル爲メニ設ケタル者ニ
 シテ善人ノ爲メノ用其主タリ如何ゾ黄金世界ト雖モ此二
 府ノ不用ナルノ理アラソヤ(時ニ一方ヨリノ)大ノ
 ト云ヒバ又一方ヨリヒヤ)大ヒヤ云ヒ之レガ爲メ滿場
 動遙シヒヤ)舌戰烈シクノ暫時辨士ノ演說聽
 衆ノ耳ニ達セザルハ甚ダ遺憾ノ至リニコソ)先ヅヒヤノ
 ノ舌戰ハ暫バシ御止ドマリ給ヘト云ヒツ、一聲高カ
 ニ張上ゲテ曰ク夫レ黄金ニ全ク政府ナシトセンカ然ラバ
 社會ノ事皆ナ整ハズ萬人萬異雜駁混亂ニシテ更ニ文明ノ
 情態ナシ況ンヤ黄金世界ノ有様ヲヤ絶テ其黄金世界ナル
 者ノ有様ナシト斷言セザルヲ得ズ此ノ如クナレバ即チ之

チ野蠻世界ト謂ハザル可ラズ若シ果シテ此ノ如キ有様チ
 名ヅケテ黄金世界ト云フ者ナレバ予輩ハ黄金世界ノ來ラ
 ザル可キ様今ヨリ彼ノ保守黨ノ仲間ニ入り今日ノ情態チ
 失ハザラソノヲ務メント欲ス然レニ黄金世界ハ決シテ此
 ノ如キ者ニ非ラズ司法府ハ其不用ナルヲ世人ノ云フ所ノ
 如シト雖モ立法行政ノ二府ハ必ズ之レアル可キ者ト信ズ
 否ナ其司法府ノ無用ニ歸シテ立法行政二府ノ必要ナルノ
 社會チ名ヅケテ黄金世界トハ云フナリ諸君以テ如何ト爲
 ス(是ニ至テ滿場皆ナヒヤ)ノ聲チ發シ其音轟々爲メニ
 演場震動セリ)

○保守主義ヲ駁ス

諸君ヨ諸君、諸君ハ此社會チ以テ如何ナル者ト思ヘルカ此

社會ハ停滯不流ナル者ト信ズルカ將々活動前進ノ者ト信
 ズルカ之チ史ニ徴シテ古昔ヨリ今日ノ有様チ願ミレバ活
 動前進ノ者ニシテ決シテ停滯不流ノ者ニ非ラザルナリ然
 ラバ此社會ノ有様ハ恰モ半生前ノ人體ノ如ク一年ニ成
 長シテ嘗テ一日モ停滯セシヲナシ唯ダ肉眼チ以テ其成長
 ノ時チ見ル可ラザルノミ既ニ社會ノ有様ヲシテ人體ノ如
 シトセバ則チ人ノ身體チ以テ之チ願ミヨ夫レ人ノ身體ハ
 長ズルガ故ニ衣服モ亦之レニ應シテ改メ作ラザルチ得ズ
 然ルチ保守主義チ以テ之レニ臨メバ則チ衣服チ主トシ之
 チ改メ作ルハ不可ナリ故ニ人ノ身體ニ長セバ其餘ル所
 ヲ切捨テ以テ其衣服ニ適セシメザル可ラズト云フニ在リ
 豈ニ亦主客顛倒ノ議論ナラズヤ今夫レ保守主義チ以テ政

○演說

治社會ニ臨ム者何ヲ以テ之レニ異ナランヤ嗚呼保守主義ノ愚ナル何ツ其レ太甚ダシキ此主義ヲ執リ以テ政治ヲ運轉セントスル我が反對論者ヨリ其心情笑止千萬ナレ(ヒヤテ曰ク撮ミ出ダセ)

○政黨論

諸君ヨ諸君何レノ邦國ト雖モ政黨ナクシテ其政府ノ專裁トナラザルハナク又反對ナクシテ其治者ノ抑制トナラザルハナシ凡ソ社會ノ事物ハ其偏重スル所ニ腐敗ヲ生シ全勝スル所ニ衰頹ヲ來タサマルハナシ故ニ孔子ノ學ハ諸子百家ノ說ヲ壓倒シテ遂ニ全勝ヲ制シ而シテ孔子ノ學是レヨリ腐敗ス又羅馬ハ進攻遠畧百戰百勝遂ニ宇内ヲ舉ゲテ

殆ンド其版圖ニ歸シ而シテ羅馬是レヨリ衰頹セリ是レ反對ノ勢力ナキノ然ラシムル所ニシテ孟子ノ所謂敵國外患ナキ者ハ國恒ニ亡フト云フ者即チ此ノ故ナリ嘻々其レ反對ノ勢力ハ事物ノ腐敗衰頹ヲ防キ之レヲシテ能ク進步繁榮セシムルノ効能アリ故ニ若シ夫レ反對ナケレバ則チ其事物必ズ腐敗衰頹セシ由テ之ヲ觀レバ政黨ハ政治社會ノ腐敗ヲ醫スル良藥ニシテ天下一日モナカル可ラザル必要具ナリ豈ニ其レ政黨重ゼザル可ケンヤ然ルニ我邦昨今各政黨ノ益々解散スルハ實ニ長大息ノ至リナリ嗚呼明治二十三年ニ遠キ十五年ニ在テハ政黨盛ニシテ二十三年ニ近キ十七八年ノ今日ニ至リ却テ其衰退ヲ來セルハ抑モ何事ツ予輩ハ夫ノ政黨者流ヲ目シテ愛國心ノ爲セル者

等人民ノミチ以テ國家百般ノ事務ヲ整理スルヲ得ズ必
ズ之ヲ統理スルノ主長ナカル可ラズ然レバ則チ政體ノ諸
形體ニ就テハ未ダ嘗テ單純ニ其性質ヲ保チ其位地ヲ占ム
ル者ナキヤ亦疑ヒナキノ事實ナリ諸君以テ如何ト爲ス乎
(ヒヤ)

◎第二節 學術

○自殺ハ怯ノ一字ニ原ス
諸君ヨ諸君夫レ死ハ易ク生ハ難シ而シテ一決自殺ス甚ダ
勇ナルガ如シト雖モ他ノ一方ヨリ見レバ則チ怯ナリ何ト
ナレバ其自殺スルハ人生ノ艱苦ニ耐ル能ハザルニ由ル是
レ勇ナキナリ汚辱ヲ被ムルナリ困難ニ遭フナリ損失ヲ受
クルナリ意見伸ビザルナリ是等ノ事ニ耐ルノ氣象ナキ要

スルニ怯ノ一字ニ歸ス汚辱ヲ受ケテ自殺ヲ爲ス一理アル
ガ如シト雖モ一死豈ニ之ヲ雪ク可ケンヤ况ンヤ人間世界
ヲ離レバ既ニ聲譽ヲ復スルノ期ナクシテ生存スルハ却テ
其期アルチヤ史籍ヲ案ズルニ國事ニ就キ意見立ズシテ自
殺スルノ例寡カラズ一敗シテ氣ヲ喪ヒ自殺スレバ其意見
百世行ル、ノ時ナシ若シ己レノ威權ト議論トチ以テ漸ニ
之ヲ計ラバ或ハ其成ルノ日アラン之レニ耐ヘズシテ俄カ
ニ自殺スルハ勇ニ非ラズ又將軍戰敗シテ自殺スルハ一時
ノ情狀左モアル可シト雖モ勝敗ハ兵ノ常ナリ死スレバ既
ニ辱ヲ雪クノ期ナシ而シテ切迫此ニ及ブハ勇ニ非ラザル
ナリ故ニ曰ク自殺ハ怯ハ一字ニ原スト(ヒヤ)大ヒヤ
○道德ト自由トハ其原則一ナリ

諸君ヨ諸君道德ハ溫柔ノ性質ヲ有スル者ニシテ自由ハ活
 發ノ性質ヲ有スル者ナリ然ラハ道德ノ原則ト自由ノ原則
 トハ別ナルガ如ク思惟セラル、ト雖モ決シテ然ラズ道德
 ト自由トハ其性質ヲ異ニスル此ノ如シト雖モ其原則チ一
 ニスルハ頗ブル奇ニシテ驚ク可キ者アリ然ラハ何ヲ以テ
 道德ト自由トハ其原則チ一ニスルカ夫レ道德ノ原則ハ己
 レハ欲セザル所人ニ施ス、勿レト云フニ在リ自由ハ原則
 ハ人ヲ害スル勿レ人ヲ害セズンバ其害サ、ルハ範圍内ハ
 自由ナリト云フニ在リ其己レノ欲セザル所人ニ施ス、勿
 レト人ヲ害スルヲ勿レトハ同一意味ニシテ敢テ異ナル所
 ナシ去レバ道德ノ原則ト自由ノ原則トハ同一ニシテ道德
 ト自由トハ其性質ヲ異ニスル正ニ反對ノ點ニ在ルガ如キ

モ其原則如何ト問フ時ハ同一ニシテ道德ハ自由ノ溫柔ナ
 ル者自由ハ道德ノ活發ナル者ノ差アルノミ然ラバ則チ道
 徳家ヲラザル者ハ決シテ自由家タルヲ能ハズ故ニ自由家
 タラント欲スル者ハ必ズ道德家ヲラザル可ラザルナリ(ヒ
 ヤ) 大ヒヤ)

○原因ト結果ノ關係

諸君ヨ諸君諸君ハ原因ト結果トハ如何ナル關係ヲ有スル
 者ト思惟スルカ遯克爾氏ノ説ニ據レハ凡百ノ人事同一情
 況ハ下ニハ必ズ同一ハ結果ヲ現ハス、ト是レ原因ト結果ト
 ハ同一ニシテ敢テ異ナル可キ者ニ非ラザルヲ云フ者ナリ
 成程信ニ然リ予輩モ亦常ニ其然ルヲ知ルト雖モ是レ其
 常則ニシテ變ナキ時ノヲナリ夫レ一ノ原因ノ社會ニ現ハ

レテ其結果ノ生ズルハ其間ノ年限極メテ不期不定ニシテ
 或ハ數日數月ナル者アリ或ハ一年ナル者アリ或ハ十年ナ
 ル者アリ或ハ百年ナル者アリ故ニ其年限ヲ經過スルノ道
 中ニハ他ノ事情ノ爲メニ左右セラレテ異情ノ結果ヲ生ズ
 ルコトアリ故ニ後來結果ノ如何ヲ知ラノガ爲メニハ獨リ原
 因ヲ講究シタレバトテ之ヲ知ルコト能ハザル者アリ諸君以
 テ如何ト思惟スル乎(議論ノ高尙ニ過ギテ聽衆其意ヲ解セ
 ザルカ或ハ其説明ノ足ラザルカ又其議論ノ面白カラザル
 カヒヤトモハトモ言フ者ナカリキ)

○拿破崙ノ一言ヲ評ス

諸君ヨ諸君拿破崙一世嘗テ言ヘルコトアリ曰ク我輩遂ニハ
 英國ヲ壓倒スルヲ得可シ見ヨ我ガ人民ハ英國ヨリ多シト

是レ未ダ其實ヲ知ラザル者ノ言ノミ當時英國ノ所有セル
 蒸氣機關ヲ合算シテ其作業ヲ計レバ凡ソ強健ノ成男三千
 萬員ノ事業ヲ爲ス是レ現員ノ外尙ホ三千萬ノ人口アルナ
 リ而シテ此人ヤ膏ニ油ト石炭ヲ要スルノミニシテ衣食ナ
 ク疾病ナク寒暑ヲ別タズ晝夜ヲ論ゼズ常ニ活動シテ疲勞
 セズ睡眠セズ極便至利ノ人員ナリ斯カル有用ノ人物ヲ算
 セズ獨リ横目豎鼻ノ人ヲ算シ直チニ以テ其寡少ヲ輕侮ス
 拿破崙ノ敗亡亦宜ナラズヤ嗚呼拿破崙ヲ破ブリシハ究林
 登ニ非ラズ華德路ノ軍兵ニ非ラズ其計算外ニ置キタル鐵
 騎即チ蒸氣機關ナリ豈ニ其ノ恐レザル可ケンヤ後チノ戰
 争ニ於テ其人員ノ多少ヲ論ズル者宜シク察セザル可ラザ
 ルナリ(ヒヤ)

○演說

○文明論

諸君ヨ諸君文明トハ如何ナル情況ヲ目シテ云フ者ナルカ
 按ズルニ邁克爾氏曰ク如何ニ智識開發スルモ若シ道德ニ
 シテ改良セズンバ以テ之ヲ稱スルニ足ラズ又如何ニ道德ニ
 改良スルモ若シ智識ニシテ開發セズンバ以テ之ヲ稱スル
 ニ足ラズ然ラバ正ニ知ル文明トハ智識ノ開發道德ノ改良
 兩立併行スルハ情況ナルヲト其ノ信ニ然リ然ラハ則チ其
 智識ト道德トノ分量ハ半々即チ五分々々ニテ可ナランカ
 將タ其分量ニ多寡アルカ邁克爾氏漠トシテ之ヲ論ズル
 ナレ果シテ如何ナル分量ナルカ彼ノ大氣ノ分量ヲ分析ス
 ルニ一酸素四窒素ヲ以テ結成スルナリ又彼ノ鼠色ヲ見ル
 ニ九白一黒ヲ以テ交合スルナリ夫レ酸素ト窒素トハ大氣

ヲ結成スル所以ノ物ニシテ白色ト黒色トハ鼠色ヲ交合ス
 ル所以ノ物ナリト雖モ若シ之ヲシテ五分々々ノ分量タラ
 シメバ決シテ其大氣ト鼠色ヲ作ルヲ能ハズ今夫レ文明ニ
 於ケルモ亦然リ智識ト道德トハ文明ヲ組織スル所以ノ者
 ナリト雖モ若シ夫レ五分々々ノ分量タラシメバ決シテ文
 明ノ社會ヲ組織スルヲ能ハズ何トナレバ此社會ハ活動ノ
 性質ヲ有スル者ニシテ決シテ死止物ニ非ラズ然ルニ智識
 ハ活動物ニシテ道德ハ死止物ナレバ文明ノ爲メニハ其智
 識ヲ要スルコト多クシテ道德ヲ要スルコト少クシテ道德ハ唯
 ダ其レ智識過進ノ弊ヲ防禦スルニ止テ敢テ進爲ノ務メナ
 キ者トス其進爲ノ務メハ獨リ智識ノ職トスル所ナリ故ニ
 若シ智識道德五分々々ニテ組織トバ此社會ハ停滯不流遂

ニ死止物トナルノ恐レアリ然ラバ其分量ハ如何シテ可ナ
ランカ確乎一定ノ分量モナケレモ凡ソ七[◎]智[◎]三[◎]德ノ分量或
ハ文明ノ實質ナランカト信ズルナリ聊カ文明ノ事ニ就テ
ノ意見ヲ演ブルヲ爾リ(ヒヤ〜)

○案外論

諸君ヨ諸君世ニ案外ナル者アリヨモヤ此ノ如キ事アラザ
ル可シト思ヒノ外案ニ相違シテ驚ク可キ事眼前ニ横ハリ
來ルハ是レ果シテ豫メ知ル可ラザル者ナルカ否ナ案外ナ
ル者ハ見ルヲハ明カナラズシテ考フルヲハ詳カナラザル
ヨリ生ズルハミ畢竟誤認ノ甚ダシキ者ナリ抑モ理由ノ在
ル有リテ後チ案外思ハシム可キ者ハ既ニ其始メニ備ハレ
ルヲ知ラズシテ思ハズ知ラズ變動ニ會ヒ以テ案外ナリト

シテ吃驚スルニ過ギズ故ニ若シ夫レ見ルノ明カニシテ
考フルノ詳カナルニ於テハ決シテ案外思ハシム可キ事
アルヲナシ(ヒヤ〜)

○作者自ラ之ヲ知ラズ

諸君ヨ諸君彼ノ入組タル大普請ヲ見ヨ先ヅ棟梁ガ材木ニ
墨打ヲシテ職人ニ渡セバ職人ハ其材木ノ性質ヲ知ラズ其
功能ヲ知ラズシテ丸クト云ヘバ則チ丸ク四角ト云ヘバ則
チ四角ニ削リ之ヲ組立テ、大樓閣ヲ成スニ至テ始メテ己
レガ嘗テ削リタル材木ノ功用ヲ見テ之ヲ驚クヲアリ蓋シ
此大普請ノ仕組ハ棟梁一人ノ心中ニ在テ存スル者ナリ人
事モ亦斯ノ如シ一國ノ治亂興敗ヲ制スル者ハ人民一般ノ
氣風ニ存スル者ニテ此治亂ノ際ニ當リ其事ヲ行フ者ハ自

ラ行フテ自ラ之ヲ知ラズ成功ノ後ニ至テ之ヲ驚ク者多シ
(ヒヤ)

○自貴ノ心ハ成功ノ元素ナリ
諸君ヨ諸君夫レ自貴ノ心ハ成功ノ元素ナリ凡ソ人ノ事ヲ
爲サントスルヤ苟モ自貴ノ心ナクンバ決シテ其事ヲ貫徹
スルコト能ハザルナリ今其一例ヲ舉グレバ嘗テ閣龍ガ新世
界ノ發明ニ於ケル即チ是レナリ該氏ガ各國ニ奔走シテ其
意見ヲ主張シ當時ノ學者紳士ト辨難スルノ時ニ當リ其自
貴ノ心ナク我レハ是レ一水夫ニシテ彼等ハ皆ナ博學多識
ノ貴紳ナリ迎モ我輩ノ企テ及ブ所ニ非ラスト卑怯ナル意
思ヲ出スコアラバ何ゾ新世界發見ノ大業ヲ成就シ功名ヲ
青史上ニ赫々ヲラシメ美名ヲ萬世ニ垂ル、コトヲ得ンヤ是

ニ由テ之ヲ觀レバ自貴ノ心ハ成功ノ元素トナル復タ論ヲ
待タザルナリ斯邁爾斯氏曰ク自己ヲ馮信セザル者ハ敏速
ニ事ヲ成スト能ハズ凡ソ事ヲ成サニハ自ラ其事成ル可
シト思フハ心ガ第一ハ助ケナリト諸君其レ自愛セヨ然レ
ル自愛ト天狗トハ其間髪ヲ容レザレバ其自愛變シテ天狗
慢心自負トナラザル可キ様注意セザル可ラザルナリ(ヒヤ)

○時機論

所謂時來レリト稱スル者ハ多クハ眞ノ時機ニ後レタル時
ナリ夫レ食事ノ時ハ即チ飯ヲ喰フナリ飯ヲ炊クノ時ハ其
以前ニナカル可ラズ飯ヲ炊ガズシテ空腹ヲ覺ヘ乃チ時來
レリト云フモ其時ハ炊キタル飯ヲ喰フ可キ時ニシテ飯ヲ

炊ク可キ時ニ非ラズ又馬車及ヒ腕車ヲ命シテ他ニ行カン
 ニ其當ニ到ル可キ家ノ前ニ到テ始メテ此處ナリト云ハマ
 車ハ遶カニ止ムル能ハズ勢ヒニ乗シテ一軒先キノ家ノ前
 ニ着ス可シ故ニ真ノ時機ヲ知ル者ハ其當ニ到ラントスル
 家ノ一軒此方ニ於テ車ヲ止メヨト云フヲ以テ過不及ナク
 當ニ其到ル可キ家ノ前ニ着ス可シ凡百ノ事其時機ハ當ニ
 其時ナリト思フノ分前ニ在テ存スル者ナリ乞フ諸君之ヲ
 察セヨ(ヒヤ)

○學成ラザルヲ耻ヅ用ヒラレザルヲ耻ヂズ
 諸君ヨ諸君、君子能ク貴ム可キヲ爲シテ人ヲシテ必ズシモ
 己レヲ貴マシムル能ハズ能ク信ズ可キヲ爲シテ人ヲシテ
 必ズシモ己レヲ信ゼシムル能ハズ能ク用ユ可キヲ爲シテ

人ヲシテ必ズシモ己レヲ用ヒシムル能ハズ故ニ君子ハ修
 ラザルヲ耻ヅ貴マレザルヲ耻ヂズ信ナラザルヲ耻ヅ信ゼ
 ラレザルヲ耻ヂズ能ハサルヲ耻ヅ用ヒラレザルヲ耻ヂズ
 是レ以テ譽マレニ誘ハレズ誹リニ恐レズ道ヲ率テ行ヒ端
 然トシテ己レヲ正フス物ノ爲メニ側ヲ傾ケズ夫レ之ヲ誠
 君子ト謂フ假令誠君子ニ非ラズト雖正人ハ宜シク然ラザ
 ルペカラザル可キニ近世ノ人ハ右ニ一轉シテ動モスレバ
 學成ラザルヲ耻ヂズシテ却テ用ヒラレザルヲ耻ヅル者ノ
 如シ嗚呼淺間敷事ナラズヤ聊カ辨シテ以テ世ヲ規スト云
 爾(ヒヤ)

○人心論
 諸君ヨ人心ハ果シテ如何ナル者ナルカ其善ト惡トハ姑ク

措キ萬人同心ナル者カ將々異心ナル者カ左氏曰ク人心ハ
 同シカラザル其面ノ如シト其レ然リ人ノ心ニ剛柔アリ奢
 儉アリ明暗アリ勇怯アリ萬品同シカラズト雖也又孟子ノ
 所謂人心ノ同シク然ル所アリテ存スルナリ今試ミニ數多
 ノ人ヲシテ一部ノ通俗三國志ヲ讀マシメシメニ曹操仲達ヲ
 善人ト悦ブ人ナク玄德孔明ヲ惡人ト憎ム者ナカル可シ又
 太平記ヲ讀マシメシメニ千人ハ千人萬人ハ萬人正成ノ忠勇
 ナ感シ直義師直ノ惡行ヲ憎マザル者ナカル可シ又夫レマ
 デモナシ賤人ノ演劇ヲ觀ル者大星ヲ忠義ノ人ト思ヒ定九
 郎父子ヲ惡人ト憎ム人心是非ノ明亮々然トシテ掩フ可ラ
 ズ去レバ人心ハ同然ナル所アリ又不同ナル所アリ強チ一
 定セザル者ト知ル可シ(ヒヤ)

○是非利害ノ辨

道理上善ナル者ヲ稱シテ是ト云ヒ道理上非ナル者ヲ名ツ
 ケ非ト云フ其是非ノ如何ヲ問ハズ唯ダ其時ト處ト人ニ益
 アル者ヲ呼ンテ利ト云ヒ又其時ト處ト人ニ失アル者ヲ號
 シテ害ト云フ故ニ是非ハ一定不變ノ者ニシテ利害ハ變轉
 無究ナル者ナリ李塗曰ク孟子ハ辨是非ヲ計テ利害ヲ計ラ
 ズ而シテ利害未ダ嘗テ明カナラズ戰國策ノ辨利害ヲ計テ
 是非ヲ計ラズ而シテ二者胥ニ之ヲ失スト蓋シ是非ヲ計テ
 利害ヲ計ラザレバ則チ國家ハ漸々萎靡衰頽ス可シ又利害
 ナ計テ是非ヲ計ラザレバ則チ爭鬪擾亂ヲ醸生ス可キナリ
 故ニ是非ヲ計テ且ツ利害ヲ計ラザレバ決シテ文明ノ進歩
 スルコトナシ聊カ以テ是非利害ノ辨ヲ爲スコト爾リ(ヒヤ)

○第二章 滑稽

○義理と犢鼻褌しや欠かれない

ニッヘン諸君よ下等社會の諺も義理と犢鼻褌しや欠かれないと云ふことあり夫れ義理を欠かんか然らば心の醜體忽ち顯はれ以て社會に齒せられずして所謂仲間外れといなざるべし穴ナ恐れざるべけんや若し又犢鼻褌を欠かんか然らば身の醜體忽ち現はれ以て天下も齒せられずして矢張お仲間外れとなされざるを得ざるべし是れ何ぞや義理なるもの心の醜體を掩ふ所以の布にして犢鼻褌なるもの醜體を藏す所以の布なればなり然るに方今我邦の書生イヤサ傍聴諸君外の書生(ノ一)ハ半ば犢鼻褌を欠き其餘の犢鼻褌を欠かざる者の大概男子の犢鼻褌を掛くる

となく女子の犢鼻褌を巻き付け歩行の間チラチラ裾に現はすものゝ如し諸君の中に一人もなかるべし(ノ一) 諸君に於て所て其人と爲りを察するに其犢鼻褌を欠く者の狡黠にして犢鼻褌を欠くと共義理を欠き下宿屋を喰ひ倒し損料夜具を典ずる等其不義不理の常として取て珍しからぬことなり又其女子の犢鼻褌を掛くる者の溫柔にして女子の犢鼻褌を掛くると共其氣象女子に如くにして少しも勇氣なく徵兵を恐るゝこと鬼神の如く徵兵に出づれば生命なく生命なければ動かれずと其ビクビク然たるの憫はれ千萬もあれ又氣毒億兆もあれ斯かる勇氣なき者なるが故も事も當て之を實行するの氣力も乏し諸君よ諸君の中より斯かる者一人もなかるべしと雖ども(ノ一)

茲も左り人たる者の必らず犢鼻褌を掛けたまものなぞ又之ヲ掛くるに就ては男子ハ男子らしく男子の割り犢鼻褌を掛けたまものよころ夫れ女子をして試みふ男子の割り犢鼻褌を掛けしめんか其様奇に考て笑止千萬のおとなるべし人の風を見て我が風を直せよ假令女子よして男子の犢鼻褌を掛くる者なきも若し之れありと假定して之を思ひば笑止千萬のことどもなりとすれば亦從て男子よして女子の犢鼻褌を掛くるの笑止千萬なることを知るべし諸君以て如何と思ひるか(ヒヤ／＼大ヒヤ)

○ホソニ茶菓子女話

諸君よ予輩ハ諸君を茶菓すよあらず世間の有様を茶菓すなれ諸君も定めし聴きつらんへい今日よハ熊さんハお内

よかへオヤ／＼八さん久ぶりのお出だぬサアア此ちらへ内の者も居ましたからお揚りなさいお茶でも入れませうと云ふよア八公ハでも茶ですかへでも茶なら先づお断り申しますと云ふよ熊公奥の間イヤサ厠より出て來り何をつまらぬことを云ふて居るのだマア八や揚りやと聽て番茶の柱だらけなるを入れたるよ付き八公の茶碗よ茶柱の立ちしを見て欣然として喜びイヤ茶柱が立ちやがツた目芽い／＼と云ふハ社會の常態なり嗚呼其れ果してでも茶悪しきか否な／＼決して悪しからず却て之を善きものど云ハねばならざるなり何ぞや交際の深密なるを貴んで其深密ならざるを賤むよあらずや去てでもの言葉を考ふるに交際の密なるものよ言ふ所よして決して交際の深

密ならざるものと言ふ所あらず畢竟てその言葉の交際の深密なるを表するものなり去ればでも茶の好むべくして思むべきものよわらず然るを之を忌み嫌ふの日頃ろ交際の深密なるを欲するの心と撞着するよあらずや又茶柱ハ如何なる茶も多く立つか精製も柱なく粗製に柱あり然らば粗製の茶を飲む者の常も吉にして精製の茶を喫する者は常に凶なるか殆んど怪むべし去れど又首を傾けて之を考ふるに其怪むに足らぬものありて存するなり何ぞや粗製の茶を飲む位の人は何事も付つ常も節儉に志て敢て奢侈なる所なし故も其結果遂も吉となりぬべしと雖ども精製の茶を喫する者の如きは萬事も付け常も奢侈よしと敢て節儉する所なきを以て其結果終も凶となりぬる

なり去れば柱の立つを喜ぶの風俗敢て怪むに足らず却て其味ひあることを知るべし(ヒヤ〜)

○釋迦の説方の閻魔の笑ふ所なり

諸君よ諸君の予輩が此の如き奇々怪々驚くべきの題號を掲げ來らば大よ之を笑ふべしと雖ども其れ是れ此の如き題號を掲げ來る所以のもの抑も亦々説あればなり何ぞや釋迦の説く所は現世よあらずして來世よあり而して諺よ曰く來年の事を云へば鬼之を笑ふと然らば再來年より以往來世の事を云はゞ以て鬼の親分隊長たる閻魔王の之を笑ふや假令諺の之れなくとも推理上當も然るべき所なり嗚呼釋迦の喋々來世の事を説き以て閻魔王の裁判嚴なるを云ふも閻魔王は却て之を笑ふの諺理の當も然るべ

き所なり嗚呼亦奇ならずや(ヒヤ)〜大ヒヤ笑聲恰も雷の如し)

○輿論の解

諸君よ人よして久淵よ朋友の許を訪ひたるときは必らず「御家内中の誰殿様も五機嫌宜しう五坐りますか」どの挨拶を受くるならん然るときに其人は謝して云はん「雖有五座ります家内中孰れも堅勝よ五坐ります」と然るも傍人より之を見れば其人の子供の現に大病よ罹れり何を以て家内よ事故なしと言ふやと詰られたらんよ彼れは一年にも満たざる小兒なれば之を家内の部分よ入れすと謂ひしかれば誰か是を以て適當なる言語なりと爲す君のらんや何となれば此場合に於て家内と言ふの老人となく小兒とな

く一家を組織する者を擧ぐるの辭なればなり然れども家内なる文字は時に因て其示す所を異よせり試みに思へ世人己れの子息の爲めよ新婦を娶らんが爲めよ媒妁よ托して之を其父母よ申込み其父母より「五家内中五一同よ娘の不束なる事を五承知の上あらば差上まじやう」と返答あり其婦を娶らんとする方よ於ても「亦篤と家内中へも相談を致しましたが孰れも申分の五座りません」と言はんよ前の論理を推して之れを詰る者あり子の家内中よ意見なきと謂ふ然らば中風よ罹つて心經を失ひたる老婆よも今年生れたる赤ノ坊よも一々相談を爲せしかと問ひしむれば世人の是を以て牽強不當の言語なりと思惟するよ相違なし何となれば此場合に於て家内と言ふの一家の智識あり分

別ある者を指すの言語なればなり然れば同じく國民の文字よても時あつて普く一國人民の全數を指し時あつて單よ其智識あり分別ある者のみを示す事あるを知るべきなり即ち全國民の過半數よ至らざる議論と雖ども苟も文字あり智識あるもの中よ於て過半數を占むるの議論の輿論なり故に輿論の如何を知らんと欲せば全國民の上に於て其人員の多少を論ずることなく宜しく文字あり智識ある者の中に就て其人員の多少を論ずべし然れば輿論と否とを知る亦容易なり(ヒヤ〜大ヒヤ)

○交際の間接に利ありて直接よ害あり

店子曰く向長屋の家主の大量なれども我が大家の如きの古今無類の不通ものなりと戸長曰く鄰村の小前の何れも

従順なれども我が村内の者の兎角よ心得方宜しからずと主人の以前の婢僕を譽め婢僕の先の旦那を慕ふ管よ主僕の間のみならず後妻を娶て先妻を想ふの例もあり親愛盡き果てたる夫婦の間も遠ざかれれば又相想ふの情を起すよ至るものならん去れば今店子と家主と戸長と小前と其間よ様々の苦情あれども其苦情の決して眞の情實を寫し出したるものよ非らず此店子をして他の家主の支配を受けしめ此戸長を轉じて鄰村の戸長たらしめなば果して之れよ満足すべきもの否な多くの之れに満足せずして却て舊を慕ふべし而して其舊必ずしも良なるよ非らず其新必ずしも悪しきよ非らず唯だ徒らよ目下此私に煩悶する此み蓋し其故の何ぞや直接の爲めよ眼光を掩はれて地位の利害

り眩せしなり今世の人心として人々直ち相接すれば必
 ず他の短を見て其長を見ず己れも求むること輕々して人
 も求むること多きを常とす是れ即ち心情の偏重あるもの
 として如何なる英明の士と雖ども能く此弊を免かるる者
 の甚だ稀れなり或一人と一人との私交なれば近く接し
 て交情を全ふするの例もなきも非らざれども其人相集て
 種族を成し此種族と彼の種族と相交るゝ至ては此彼遠く
 離れて精神を局外に置き遠方より視察するも非らざれば
 互に他の真情を判断して交際を保つこと能はざるべし譬
 へば遠方より望み見れば圓き山にても其山を登れば圓き
 處を見ず遙かよ眺むれば曲りたる野路も親しく其路を踐
 めば曲る處を覺へざるが如し直接を以て其の判断を誤る

るものと云ふ可し斯かる弊害の近日我邦の政談上も於て
 も大に流行するが如し乞ふ宜しく察せざるべからざるな
 り(ヒヤ〜)

●第二編 討論

○第一章 政論

○主權果シテ何レニ在ル乎

發議者曰ク主權トハ何ツヤ即チ國家ノ大權ニシテ最上權
 ナリ至高權ナリ不羈獨立ノ國權ナリ此權ハ外ニ對シテハ
 一國ノ獨立ヲ表シ國家ノ尊榮ヲ保ツノ大權トナリ内ニ向
 テハ立法行政司法諸部局ノ樞軸トナルノ大權ナレハ其國
 ノ最上地ニ位シテ其尊嚴ヲ保タザル可ラス元來國家ハ有
 機體ニシテ恰モ一大身體ノ如キ者ナリ既ニ身體ノ如キ者

ナリトセバ必スヤ其全身ヲ支配スルノ頭腦ナカル可ラズ
主權ハ實ニ其頭腦ニシテ即チ一國ノ上ニ就テ頭腦ト申シ奉
ツル可キハ君主ナレバ其主權ノ君主ニ在ルヤ昭々トシテ
明カナリ左ナキダニ君主トハ其名稱ノ自ラ主權ノ宿スル
所タルヲ明カナラシムルニ足リテ君權ハ即チ主權ナリ何
トナレハ君主ナル語ハ即チ國民ヲ統治スルノ意味ヲ含有
スル者ニシテ人民ヲ統治スル者ハ必ズ主權ヲ有セザル可
ラザレハナリ故ニ共和國ハ別事ニシテ苟モ君主ノアル國
ニ於テハ其政體ノ專制政體タルト立憲政體タルトヲ問ハ
ズ主權君主ニ在リト斷言セン諸君以テ如何ト爲ス乎
反對論者一人起立シ議長ト呼ンテ曰ク人アリ吾人ニ問フ
ニ主權ノ本體如何ト云ハバ之レニ答ヘテ法律制定ノ權ナ

リト云ハン而シテ法律制定ノ權何レノ所ニ住居スルヤト
問ハバ之レニ答ヘテ共和國ナレバ國民ノ中ニ住居シ獨裁
國ナレバ君主ノ家ニ住居シ立憲君主國ナレバ君主ト代議
院トニ由リ成立ツ所ノ國會ノ中ニ住居スト云ハン故ニ發
議者ノ說之ヲ獨裁國ニ當ツレバ則チ能ク適スルノ說ナリ
ト雖モ若シ之ヲ立憲君主國ニ用フレバ大ナル謬見ナリ何
トナレバ立憲君主國ノ如キハ其法律ヲ議スル者ハ代議士
ニシテ其之ヲ採否スル者ハ君主ナレバ其君主ト代議士ト
ノ一方ニ就テハ未ダ以テ主權ノ全體ヲ形テ造グルニ足ラ
ズ二者相須テ茲ニ始メテ主權ノ全體ヲ形テ造グル者ナレ
バナリ故ニ立憲君主國ニ於テハ主權國會ニ在リテ存スル
ナリ

又反對論者一人起立シ議長ト呼ンデ曰ク諸君試ニ史ヲ緝
 テ之ヲ見ヨ君主ニシテ正理ナレバ主權君主ニ在リト雖
 若シ君主ニシテ正理ヲ失スルニ於テハ主權ハ君主ノ手
 去テ正理ノアル所ナル他ノ一人若クハ數人又ハ人民總體
 ノ手ニ歸ス可シ然ルニ其主權ヲ握リシ者又正理ヲ失スル
 ニ於テハ主權再ビ去テ他ノ正理アル者ノ手ニ屬ス可シ斯
 ノ如ク主權ハ始終正理ノ跡ヲ慕フテ之レニ附隨シ輾轉極
 リナシ畢竟社會ハ正理ノ支配スル所ナリ故ニ主權ハ正理
 ニ在リト謂フ可シ

反對論者又々一人起立シ議長ト呼ンデ曰ク嗚呼諸君ハ何
 グ其レ近眼ノ甚ダシキヤ我邦ハイザ知ラズ外國ハ皆ナ主
 權人民ニ在テ存セリ何トナレバ主權ノ政府ニ在リ國會ニ

在ルガ如キハ是レ己レノ主權ニ非ラズシテ國民總體ノ主
 權ヲ代理スルニ過キザル者ナリ西諺ニ曰ク人民ハ政府ハ
 僱主ニシテ政府ハ人民ハ雇人ナリト果シテ然ラバ雇人ニ
 主權アル可キノ理ナシ必ズヤ主權人民ニ在テ存スル者ナ
 リ其雇人ニ主權アルガ如キハ猶ホ彼ノ豪商ノ主人ガ其主
 權ヲ番頭ニ代理セシムルガゴトキ者其リ僱國ノ學士的克
 不以爾氏曰ク大統領ハ主權ノ雇吏テリト此言以テ政府ノ
 主權ハ自己ノ主權ニ非ラズシテ代權タルヲ知ル可キナ
 リ嗚呼諸君ヨ主權ニ本權ト代理トノ別アルヲ知レ然ラ
 バ此問題ハ容易ニ決スルヲ得可キナリ

○一局議院ト二局議院ノ可否

發議者曰ク國王ト議會トハ其由テ起ル所ノ事情相同シカ

ラザレバ國王ニ益スル事情熾ンナレバ國王ノ權力熾ンニシテ議會ヲ壓倒ス可シ又議會ニ利スル事情熾ンナレバ議會ハ其權ヲ奪フテ國王ヲ壓倒ス可シ斯ノ如クニシテ兩權常ニ相容レザレバ相共ニ存スルヲ得ザル可シ故ニ此兩權ハ兩立シテ互ニ相制スル用ヲ爲スニ非ラズ唯ダ鬭争スルノミ孰レカ倒ル、ニ非ラザレバ決シテ止マザル可シ故ニ斯ノ如クニ二權ノ世ニ現出シテ相鬭フハ改革ノ時ニ際シテ見ル所ニシテ斯ノ如キ時ニ方テハ免レザルノ數ナリ加フルニ孰レカ勝利ヲ得ル後ハ必ズ苛虐ヲ行フ者ナレバ決シテ是ヲ以テ自由政體ノ基本ト爲スヲ得ザル可シ然レモ右等ノ弊害アルハ一局議院ノ時ニ起ル者ニシテ二局議院ノ時ニ起ルニ非ラズ故ニ若シ夫レ議院ヲシテ二局タラシ

メバ其上院ハ國王ト下院ノ中間ニ立チ兩者ノ權ヲ抑制シ以テ其專横ニ流ガル、ノ害ヲ防禦スルヲ得ルナリ故ニ中央ノ大權ヲシテ行政權ト上下兩院ニ三分シテ鼎立ナラシメザル可ラザルハ代議政體ノ主義ニ由テ然ラザルヲ得ザル所ナリ故ニ鞏羅斯ノ如ク其大權ノ分離スルヲ以テ代議政體ヲ維持ス可キ體裁ト云フモ敢テ不可ナカル可シ何トナレバ斯ノ如ク三權ノ同等ニ立チ鼎立スル專横ニ流ガル、ノ害ヲ防禦ス可キ體裁タレバナリ諸君果シテ異見アリヤ否ヤ

反對論者一人起立シ議長ト呼ンデ曰ク此社會ハ人間ノ利
用ニ供シタル者ナレバ其比喻ヲ取ルモ亦宜シク人間ノ身
體ヨリ取リテ彼ノ器物等ヨリ取ル可ラズ而シテ人ハ何ヲ

以テ立ツカ即チ兩足ヲ以テ立テリ然レバ社會ノ政治モ亦國王ト國會トノ二者ヲ以テ立チ取テ國會ヲ上下兩院ニ分チ以テ鼎立タラシムルヲ要セザルナリ且ツ夫レ佛國ノ如キ其革命ノ時現ニ一局議院タルハ是レ一局議院タルガ故ニ革命ヲ惹起シタルニ非ラズ革命ノ種子遠ク路^ル易十四世ノ時ヨリ胚胎シ一局議院ナラザルモ或ハ全ク國會ナル者ナキモ必ズ起ル可キノ革命ナリ故ニ革命ハ本ナリ一局議院ノ設立ハ末ナリ況ンヤ此時上下兩院ニ分立スルコトアラシメバ下院ハ必ズ上院ト抗敵シ勢ト必ズ一層猛烈ナル革命ヲ演ス可キハ苟モ具眼ノ確ク信シテ疑ハザル所ナリ然ルニ一局議院ナリシコソ實ニ不幸中ノ幸ト謂フ可シ且ツ又論者ガ二局議院ノ可ナルヲ信ズル所以ノ者ハ古來ノ經

歴及ビ實際ノ有様ガ二局議院ニシテ國家ヲ利シタルニ眼光ヲ掩ハシタルニ是レ因ルナリ然レモ是レ其二局議院タルカ故ニ國家ヲ利シタルコト非ラズ抑モ二局議院ナル者ハ元來國會組織ノ理ニ背ケル者ナレモ其之レアルハ全ク國會ナル者ナキニ優ルノ理由アルガ爲メニ因ルナリ故ニ若シ夫レ一局議院ヲラシメバ國家ノ進歩一層ノ速力ヲ加ヘ駿々乎トシテ進歩スル恰モ電信ノ飛行スルガ如クナリシ者ナル可キニ悲イ哉一局議院ノ時既ニ胚胎セルノ革命折リ惡シク此時ニ發成セルヤ是ニ於テ乎淺智ノ輩ハ忽チ是レガ爲メニ眼光ヲ掩ハシテ其眞ノ是非ヲ窺フコト能ハザルナリ然ルモ反對論者ハ尙ホ我レニ抗敵スルノ勇アル乎

○民權ハ人民ノ進取物ナルカ將タ政府ノ授與物ナル

發議者曰ク元來民權ナル者ハ天賦ノ者ニシテ敢テ人民ノ
 進取スル者ニ非ラザレバ又敢テ政府ノ授與ス可キ者ニ非
 ラズ然レ而始メテ社會ヲ組織スルヤ實際民權ナル者人民
 ノ手ニアルヲナシ其後若干ノ星霜ヲ經テ始メテ民權ナル
 者人民ノ手ニ歸スルヲ常トスルナリ然ラバ其社會ヲ爲ス
 ニ至テ後チノ民權ハ人民ノ進取スル者ナルカ將ク政府ノ
 授取スル者ナルカト云フ是レ本問題ニ就テ爭フ所ノ正點
 ナリ而シテ我輩ハ政府ノ授與物ナルコトヲ信ズル者ナリ然
 ラバ何以テ民權ハ政府ノ授取物ナリト云フカ今日現ニ民
 權ノ盛ナル英、佛、及ヒ米、合衆國ノ如キ民權ノ盛ナル國ノ如
 キ何レモ皆チ人民ノ進取シタル者ノ如シト雖田其前必ス

カ

政府ノ授與シタル者ナリ若シ夫レ始メ政府ノ授與スルコ
 ナクシテ人民何ツ民權ノ美味ヲ感シ自ラ進ンテ之ヲ取ラ
 ントスルノ氣象ヲ發起センヤ故ニ支那、印度ノ如キ未ダ嘗
 テ一回モ政府ヨリ民權ヲ授與シタルコトナキ邦國ニ於テハ
 人民自ラ進ンテ其民權ヲ取ラントスルノ氣象ナキコト非ラ
 ズヤ又我が日本ノ如キ今日人民タル者民權々々ト云フニ
 至リシ者ハ是レ維新ノ始メニ於テ政府一タヒ民權ヲ授取
 シタルニ原因セズンハアラザルナリ故ニ曰ク民權ハ政府
 ノ授與物ナリト諸君以テ如何ト思惟スル乎
 反對論者一人起立シ議長ト呼ンデ曰ク嗚呼發議者ハ如何
 ナレバ此ノ如キ愚論ヲ吐クカ民權ナル者ハ政府ノ授與ス
 ルガ如キ觀ヲ呈スルモ決シテ政府自ラ好ンテ之ヲ授與ス

ルニ非ラズ實ニ人民ノ輿論ニ迫マラル、カ若クハ財政ノ
 困難ヲ告グルニ由リ已ムヲ得ズ之ヲ授與スル者ナレバ如
 何ツ之ヲ政府ノ授與スル者ト云フヲ得ンヤ是レ即チ人民
 ノ進取スル者ナリ若シ夫レ政府ノ授與スル者ナリトセバ
 人民氣力ノ有無ヲ問ハズ等シク之ヲ授與セザル可ラザル
 可キニ民權ヲ得ル民ハ常ニ有氣力ノ人民ニ限り彼ノ無氣
 力ノ人民ノ如キハ未ダ嘗テ之ヲ得ザルニ非ラズヤ是ニ由
 テ之ヲ觀レバ民權ハ人民ノ進取物ニシテ政府ノ授與物ニ
 非ラザルヤ亦明ケシ

○普通撰舉ト制限撰舉ノ可否

發議者曰ク議員ヲ撰舉スルニ普通ト制限トノ二者アリ孰
 レカ是ニシテ孰レカ非ナル未ダ論定スル所ナシ而シテ吾

輩ハ制限ヲ可トスル者ナリ然ラバ何以テ制限ヲ可トスル
 カ乞フ之ヲ辨ゼン斯邊撒氏曰ク英國ハカ役者ハ他ニ比シ
 テ六倍ハ多キアリト嗚呼文明ノ最上ヲ以テ誇ル英國ニ於
 テスラ尙ホ且ツ然リ况ンヤ他ノ邦國ニ於テヲヤ力役者ノ
 數ハ何レモ十倍以上ノ多數ヲ占ム可キヲ亦疑フ可ラザル
 ノ事實ナル可シ然ラバ撰舉權ヲシテ普通タラシノハ勢ヒ
 下等社會ノ屬望スル所ノ人ヲ撰舉スルニ至ル可シ何トナ
 レバ議員ハ最モ投票ノ多クアル者ヲ撰舉スル者ニシテ下
 等社會ノ人員十倍以上ヲ占ムルトセバ上等社會ノ人如何
 ニ刻苦シタルニバトテ其屬望スル所ノ人ヲ多ク議員タラシ
 ムルト能ハザレバナリ然ラバ普通撰舉ヲ以テ議員ヲ舉グ
 ルトトセバ下等社會ノ屬望スル人十ノ八九ハ議員トナル

可キハ亦疑ヒナキトレテ諸テ其下等社會ノ人ハ如何ト
 顧ミルニ其眼力遠キニ及バズ又深キニ達セザルヲ以テ平
 々凡々ノ人ヲ以テ好人物ナリト妄想シテ之レニ投票スル
 者ナレバ到底議員ノ任ニ堪ユル所ノ人物ヲ撰擧スルヲ能
 ハザルナリ故ニ吾輩ハ制限撰擧ヲ可トスルナリ
 反對論者一人起立シ議長ト呼ソテ曰ク天ノ此人ヲ生ズル
 ヤ億兆皆ナ同位同爵同等權ニシテ其間敢テ異ナルナシ
 他事ハ問フヲ要セズ此一事ヲ以テ既ニ撰擧權ノ普通ナラ
 ザル可ラザルノ理ヲ知ルニ足ル可シ且ツ夫レ制限撰擧ナ
 ル者ハ土地田畑財産ノ有無若クハ多少ヲ以テ或ハ其權ヲ
 有シ或ハ其權ヲ有セザル者ナレバ大ニ不可ナリ何トナレ
 バ土地田畑財産アル者未ダ必ズシモ智識ヲ有セズ此等ノ

物ナキ者未ダ必ズシモ智識ニ乏シカラズ又其多キ者未ダ
 必ズシモ學識ヲ有セズ其少ナキ者未ダ必ズシモ學識ニ乏
 シカラザルナリ或ハ其無キ者少ナキ者却テ智識ヲ多ク有
 スルヤモ亦知ル可ラザルナリ故ニ我儕ハ普通撰擧權ヲ可
 トスルナリ

○記名投票ト無記名投票ノ可否

發議者曰ク議員ヲ投票スルニ其投票者ノ名ヲ記スルト記
 セザルトノ別アリ其名ヲ記スル者ヲ記名投票ト云ヒ其名
 ナ記サル者ヲ無記名投票ト云フ然ラハ投票ハ其記名無
 記名孰レヲ可トスルカ吾輩ハ其無記名ナルヲ可トスルナ
 リ何ナレバ若シ夫レ記名スルコトトセバ私情ノ爲メニ已
 レノ本心ニ希望スル人ニ投票スルヲ能ハザルノ害アレバ

ナリ試ニ思ヘ記名スルトセバ平素某ニハ大ナル世話ニ
ナリタレハ其人ヲ措テ他人ヲ投票スル譯ケコモ參ラズ我
ガ本心ニ希望スル所ノ人ハ他ニアレハ已ムヲ得ザルト
テ其平素世話ニナリシ人若クハ威權ノアル人ニ投票ス可
キハ人情ノ免レザル所ナリ然ルニ無記名ニセバ此等ノ弊
ハ容易ニ除去シ人々已レノ思フ所ノ人ヲ投票スルニ至ル
可キナリ故ニ吾黨ハ投票ハ無記名ナラザル可ラザル者ト
信スルナリ

反對論者一人起立シ議長ト呼ソテ曰ク余輩ハ發議者ト反
對ノ意見ヲ抱ク者ナリ凡ソ人情自己ノ名ヲ記スルト否ト
ニ就テハ其間大ナル精粗ノ差アル者ナリ試ニ思ヘ著書新
聞ナリ自己ノ名ノ記スル時ト變名若クハ他人ノ名ヲ假リ

テ記スル時トハ大ナル精粗ノ差アリテ自己レノ名ヲ記ス
ル時ハ慎ミニ慎ミヲ加ヘテ著スヲ以テ其書見ルニ足ル可
キモ其無記名若クハ他人ノ名ヲ借用シタル者ハ自ラ粗漏
ニシテ見ルニ足ル者少ナキハ世人ノ能ク知ル所ナリ故ニ
議員投票モ若シ無記名ナレバ誰ニテモイ、加減ノ人物ヲ
投票セント欲スル者過半數アル可シ故ニ終ニハ亂投票ト
爲リ好人物ヲシテ議員ヲラシムルヲ能ハザルニ至ラソ然
ルニ記名セバ某ハ誰ニ投票シタリ是レ正當ノ投票ナリ或
ハ不正當ノ投票ナリト評セラレソテ慮リ念ニ念ヲ入レ
テ好人物ヲ撰ソテ投票ス可キトハ自然ノ情勢ナリ故ニ余
輩ハ記名投票ヲ可トスルナリ

○第二章 學術

○探理論ト探蹟論トハ果シテ孰レカ可ナル乎

發議者曰ク議論ヲ爲スニ唯ダ道理ノ如何ヲ問フテ歴史ノ如何ヲ問ハザル者アリ又歴史ノ如何ヲ問フテ道理ノ如何ヲ問ハザル者アリ前者ヲ名ヅケテ探理家ト云ヒ後者ヲ稱シテ探蹟家ト云フ而シテ我輩ハ其探理家ノ一人ナリ乞フ探蹟ノ誤謬ニ陥リ易キ所以ヲ論ゼン夫レ探蹟家ハ其胸中古今ノ事蹟ニ富ムヲ以テ遂ニ理ノ一途ニ歸スルニ暗ミ古今沿革ノ千差萬別ナルニ迷フテ理非得失ヲ辨ズル不能ハズ且ツ常ニ既往ノ事歴ニ束縛セラレ自在ニ現今ト將來ノ事ニ注思スル能ハザルノ害アリ況ンヤ此社會ハ星霜ヲ經ルニ從テ益々開進スル者ナレバ概シテ既往ハ野蠻ニシテ現在及び將來ハ文明ナリ故ニ既往ノ歴史ヲ引テ現在若ク

ハ將來ノ事ヲ論ズルハ恰モ熊公八公ノ事蹟ヲ引テ以テ學士論者ノ心事ヲ論ズルガ如シ如何ツ其論誤謬ニ陥ラザルヲ得ンヤ一步ヲ讓リテ既往ノ事蹟ハ以テ現今及び將來ノ論證ト爲ル者トスルニモセヨ尙ホ且ツ誤謬ニ陥ルノ弊害アリ何ツヤ歴史上ニ記載スルノ事柄ハ皆ナ常ニ變ハリシ者ニ止テ敢テ其常ノ事柄ヲ記載セズ若シ夫レ常ノ事柄ヲ記載センカ是レ日モ亦足ラザルコトニシテ到底行ハル可キ事ニ非ラズヤ看ヨヤ歴史ニ記載スル所古ヘ何レノ地ニ紅雪降りシト云フコトアルモ未ダ其白雪降りシト云フコトアルス是レ其故何ツヤ紅雪ハ變ニシテ白雪ハ常ナレバナリ然ルニ天下ノ廣キ古今ノ長キ紅雪降ルモ亦少ナシトセズ故ニ歷史上何年何月何日何レノ地ニ紅雪降ル又何年何月何

日何レノ地ニ紅雪降ル彼レニモ降ル此レニモ降ルト記載
 ス是ニ於テ乎皮相ノ論者ハ忽チ以爲ラク斯ク紅雪彼處ニ
 モ降り又此處ニモ降ルトアルヲ以テ見レバ古ヘノ世界ハ
 皆ナ紅雪ノ降りシモノナリト是レ豈ニ謬見ノ甚ダシキニ
 非ラスヤ然レモ斯ノ如キ事ハ百ノ九十九ハ誤ル者ナカル
 可シト雖モ人事上ニ至テハ之レガ爲メ議論ノ原則ヲ誤マ
 ラル、者亦少ナシトス可ラズ豈ニ其レ察セザル可ケンヤ
 然ルニ理ヲ以テ推スノ議論ハ決シテ斯カル弊害ナシ故ニ
 我輩ハ探理論ヲ可トスルナリ
 反對論者一人起立シ議長ト呼ンテ曰ク嗚呼發議者ハ思ハ
 ザルノ甚ダシキニ非ラズヤ凡ク天下ノ事物一利アル者必
 ス一害アリ一得アル者又必ズ一失アルハ自然ノ勢ヒニシ

テ亦免レザル所ナリ故ニ一害アリ一失アルヲ以テ之ヲ捨
 ツ可シトセバ天下ノ事物皆ナ捨ツ可キ者ニアラザルハナ
 シ豈ニ其レ斯ノ如キノ理アラシヤ探蹟論ノ如キハ或ハ一
 害一失ノナキニ非ラザレモ論者ノ云フガ如キ誤謬ニ陷ル
 一アルハ稀有ノコトニシテ常有ノコトニ非ラズ夫レ人心ノ同
 シカラザルハ其面ノ如シト雖モ人情ノ同シキハ其體ノ如
 シ逸克爾氏曰ク同一情況ノ下ニハ必ズ同一ハ結果ヲ現ハ
 スト傑、紂、查爾斯、路易十四世等皆ナ同一暴虐ノ事ヲ爲シ又
 皆ナ同一ノ結果ヲ現ハシタルニ非ラズヤ然ラバ既往ノ事
 蹟ヲ以テ現今及ビ將來ノ事ヲ論ズルニ於テ何ノ誤ルコトカ
 之レアラシ然ルニ彼ノ理論ノ如キハ實ニ漠然タル者ニシ
 テ甲ノ是トスル所ハ乙ノ非トスル所ニシテ丙ノ正トスル

所ハ丁ノ邪トスル所萬人萬異更ニ歸着スル所ナシ果シテ
何レチ是トシ何レチ非トシテ可ナラシカ殆ンド其適從ス
ル所チ知ラズ實ニ理論ハ人々ノ妄想ト云フテ可ナリ嗚呼
論者ハ確乎タル實歴ノ徵ス可キ者チ取ラズシテ空漠タル
理論即チ妄想チ取ラントス其愚殆ンド笑フニ堪ヘタリ故
ニ吾儕ハ探蹟論チ可トス論者以テ如何ト爲ス乎

○男女ハ同權ナルカ將タ不同權ナルカ

發議者曰ク青年黃嘴ノ輩ハ西洋風ニ吹キ廻ハサレ動モス
レバ男女同權ナリト云ヘ且熟々事實ニ據テ考フルニ男女
ハ決シテ同權ナラザルナリ何トナレバ天男女チ生ズル既
ニ其智識ノ度チ異ニスレバ從テ亦其權チ異ニセル固ヨリ
其所ナレバナリ然ラバ何以テ男子ト女子トハ天然ニ智識

ノ差等アリト云フヤ敢テ多事チ舉グルニ及バズ裁縫及ビ
絃歌舞ハ一般女子ノ常職常藝トシテ學ブ所ニシテ男子ハ
敢テ常ニ關セサル者ナリ然ラバ其名人上手ハ必ズ女子ニ
アル可シト思ヒノ外其名人上手ハ男子ニアリテ女子ニア
ラズ况シヤ其他ノ事ニ於テチヤ皆チ其名人上手ハ男子ニ
アリテ女子ニナキト亦疑フ可ラザルノ事實ナルニ非ラズ
ヤ是ニ由テ之ヲ觀レバ男子ト女子トハ天然ニ其智識ノ度
チ異ニスル者タルヲ知ル可シ然ラバ其權チ異ニセル天
ノ既ニ定ムル所亦敢テ怪ムニ足ラズ洋狂者流以テ如何ト
爲ス乎
反對論者一人起立シ議長ト呼ンデ曰ク嗚呼發議者ノ野蠻
偏頗モ亦太甚シカラズヤ夫レ天ノ此人チ生ズルヤ億兆同

位同爵同等同權ニシテ敢テ分毫ノ差別ナシ然ラバ男子ト女子モ亦同權ニシテ其間ニ差異アルコトヲ發議者ハ男子ト女子トハ智識ニ差等アリ故ニ同權タルコト能ハズト然ラバ則チ不同權タル者獨リ男子ト女子トノ間ノミナランヤ男子中ニ於テモ上等社會ト下等社會トハ智識ニ多少アレハ是レ亦不同權タリト謂ハザル可ラズ猶ホ是レヨリモ奇ナルハ其上等社會ト云ヒ下等社會ト云フモ共同社會ノ人皆チ智識同一ナルニ非ラズ實ニ萬人萬異ニシテ萬等ノ級アル可シ去レバ某ハ幾分ノ權利チ有シ誰ハ何分ノ權利チ有スト一々權利ノ分量ノ折紙チ附ケザル可ラザルニ至ル可シ豈ニ其レ混雜モ亦甚ダシカラズヤ混雜ハ之チ忍ブ可キモ到底之ヲ能クス可キニ非ラス然ルニ斯ノ如ク萬人萬

異ノ智識ナル男子ハ皆チ同權タリトヒバ男女ノ間ニ就テ假今多少智識ノ懸隔アルモ之レガ爲メ以テ男女ノ權同シカラズトハ云フコト能ハザル可シ故ニ吾輩ハ男女同權ノ說チ可トス是レ豈ニ西洋風ニ吹キ廻ハサレタル者ナランヤ實ニ天ノ定ムル所ナリ然ルニ今日ノ社會男女ノ權不同ナルハ實ニ社會ノ有様不完具ナルニ因ルナリ噫

○實利道理兩主義ノ可否

發議者曰ク人ノ目的トスル所ノ主義ニ二アリ曰ク實利主義曰ク道理主義即チ是レナリ實利主義トハ假令不道理ナリトモ唯ダ當時ノ人民ニサヘ利益アレハ則チ之ヲ取ル者ヲ云ヒ道理主義トハ假令當時ノ人民ニ少々害アリトモ唯ダ其事道理ニサヘ適ヘバ則チ之ヲ取ルヲ云フ而シテ予輩

六十六
ハ其實利主義ヲ取ル者ナリ夫レ人類究竟ニ望ム所ハ何ゾ
ヤ他ナシ苦痛ヲ避ケテ快樂ヲ得ルニ在リ政治法律ノ施行
ヨリ道德上ノ本分ニ至ルマテ苟モ人民ノ多數ニ最大幸福
ヲ與フルヲ目的トセザレバ徒ラニ無益ノ妄説ニ流ガル、
ノミナラズ爲メニ社會秩序ヲ失シ醜惡野陋ノ域ニ沈淪ス
ルニ至ル可シ官吏ハ何物ゾ議院法廷ハ何物ゾ仁人義士ト
稱セラル、者ハ何物ゾ苟モ衆人ニ幸福ヲ享受セシムルコ
トナケレバ果シテ何ノ尊重ス可キ所アルカ虛心ニテ考フレ
バ直接間接ニ拘ハラズ人民ノ過半ニ利益ヲ生スル者ハ悉
ク之ヲ取ル可ク人民ノ過半ニ損害ヲ被ムラシムル者ハ總
テ捨ツ可シ此他敢テ慮ルニ足ル者ナシ豈ニ其レ何時利益
アルカ知ル可ラザル道理主義ヲ取リテ今日ノ人民ノ不便

六十七
ヲ受クルコトノ愚ヲ爲ス可ケンヤ
反對論者一人起立シ議長ト呼ンデ曰ク嗚呼發議者ヨ君ハ
社會ノ開進ヲ希望セザルカ若シ之ヲ希望セザレバ止ム苟
モ之ヲ希望スル者ナリトセバ何ゾ其レ道理主義ヲ措テ實
利主義ヲ取ルノ愚ヲ爲スカ發議者ノ所謂間接トハ後世ヲ
指スカ若シ果シテ然ラバ其結果我カ道理主義ト敢テ異ナ
ル所ナシト雖モ蓋シ然ラザル可シ實利家ノ所謂間接トハ
今日生人ノ間接ト云フノ儼ニシテ後世ノ間接ト云フノ意
ニ非ラザル者ト信ズ是レ吾儕ノ攻撃セザル可ラザル所ナ
リ夫レ此社會ハ當世ニシテ終ル者ナラシカ否ナ決シテ然
ラズ後世ニ傳フ可キ者タルコト昭々トシテ亦明カナリ然ラ
バ則チ徒ラニ今日ノ利益ノミ計ルコトナシ後世ノ利益モ亦

謀ラザル可ラザルナリ而シテ其後世ノ利益ヲ謀ルニ就テ
 ハ或ハ今日ニ少小ノ不便モ亦ナキニ非ラズト雖モ其不便
 アルハ其道理ノ惡シキニ非ラス實ニ當時ノ社會不完具ナ
 ルノ然ラセムル所ナレハ務メテ社會ノ有様ニ改良ヲ加フ
 レハ遂ニ其不便ハ去テ大ナル便益ヲ受クルト亦疑ヒナキ
 所ナリ然ルチ實利家ノ説ニスレバ當時社會ノ不完具ナル
 ハ之ヲ改良ス可ラズ其不完具ナル儘ニ放棄セラテ道理ヲ曲
 ゲテ之レニ附會セシメ強ク以テ當時ノ實利ヲ計ラサル可
 ラズト云フニ異ナラズ嗚呼主客顛倒ノ主義ナラズヤ故ニ
 吾儕ハ社會ハ道理主義ニ非ラサレバ進歩スルトナキ者ト
 信ズルナリ

○宗教ハ社會ニ利アルカ將タ害アルカ

發議者曰ク醫士ニ内外ノ二科アリ即チ内科醫ハ腹内ノ疾
 病ヲ治療スル者ニシテ外科醫ハ外部ニ顯ハレ目ニ見ル所
 ノ疾病ヲ治療スル者ナリ而シテ其内科ト外科トハ兼ヌ可
 ラズ否ナ之ヲ兼ヌルトチ得可キモ若シ之ヲ兼ヌレバ數醫
 タリ好シヤ勉強ノ功ニ由リ數醫ノ列チ脫ス可キモ到底庸
 醫タルノ列チ出ヅルト能ハズ故ニ内外ノ二科ハ兼ヌ可ラ
 ズ又其一チ偏廢ス可ラス必スヤ内外ノ二科ハ二人チ以テ
 別ニ務メサル可ラサルモノトス國家モ亦然リ外部ニ現ハ
 レタル惡事ハ政府之ヲ治ム可キモ其内部即チ腹内ニ在ル
 所ノ惡ハ政府之ヲ如何トモス可ラズ斯ノ如キ者ヲ數戒防
 禦スルハ即チ宗教ノ職任ナリ故ニ政府ノ宗教トハ車ノ兩
 輪鳥ノ雙翼ノ如クニシテ決シテ其一ヲ欠ク可ラザルナリ

然ルヲ近來我邦ノ青嘴書生動モスレバ宗教ヲ蛇蝎視シ無
益ナル者ノ如ク思惟スレモ是レ大ナル謬見ト云フ可シ試
ニ眼ヲ歐洲ノ中世ニ放ツテ見ヨ紀綱紊亂シ復タ如何トモ
ス可ラザルニ至リシ時宗教ノ在ル有リテ漸ク其紀綱ノ紊
亂セルヲ修理回復シ而シテ後チ益々社會ヲ改良シ文明ヲ
シテ以前ニ倍セシメタルニ非ラズヤ是ヲ以テ西哲ハ歐洲
文明ノ三元素中ノ一ニ宗教ヲ置ケリ故ニ若シ夫レ宗教ニ
シテ歐洲ニナカリセバ今日ノ文明ハ目撃スルヲ能ハズ今
尙ホ野蠻若クハ半開ノ域ニ沈淪セシヲナル可キニ宗教ア
リシコソ幸ナレ遂ニ今日ノ如キ美然タル開明ヲ致セリ宗
教ノ功豈ニ亦廣大ナラズヤ果シテ客氣ノ論者アリ以テ我
レニ抵抗スル者アリヤ否ヤ

反對論者一人起立シ議長ト呼ンデ曰ク嗚呼發議者ノ如キ
ハ其一ヲ知テ未ダ其二ヲ知ラザル者ト云フ可シ何トナレ
バ歐洲ノ中世ニ在テハ宗教モ利アリタリト雖モ今日ニ於
テハ早既ニ其利アラザレバナリ啻ニ其利アラザルノミナ
ラズ大ニ人智ノ進歩ヲ妨碍スル者アルナリ夫レ宗教ハ固
ト野蠻ノ機械ナレバ文明國ハ固ヨリ半開國ニモ要セザル
者ナリ彼ノ野蠻ノ人民ハ理ノ何タルヲ知ラザレバ理ヲ以
テ説クモ解セズ故ニ已ムヲ得テ姑クノ方便トシテ宗教ヲ
設ケテ勸善懲惡ノ具ト爲シタル者ナレモ半國ニ至レバ最
早理ノ何タルヲ辨ズルヲ得レバ既ニ宗教ノ如キ方便物ヲ
要セス直チニ其理ヲ説テ可ナリ然ルヲ發議者ハ歐洲ノ中
世ニ利益アリタルヲ以テ今日ノ開明世界ニモ亦之ヲ用シ

トスルハ猶ホ虎列刺病流行ノ際石炭散ノ功能アリシヲ以テ何時モ相變ラズ功能アル者ト思想シ其虎列刺病撲滅ニ至ルノ後チ石炭散ヲ人體ニ注グザゴトシ管ニ益ナキノミナラズ却テ大ナル害コソアルナリ宗教モ野蠻ノ時代ニハ其利アリシモ國家開明ニ赴ケル管ニ其益ナキノミナラズ偶々以テ人智ノ進歩チ妨碍スルコ足ルノミ故コ我儕ハ今日ノ社會ニ宗教ハ有害ナル者ナリト斷言シ去ルナリ

○自由教育ト干涉教育ノ利害

發議者曰ク抑モ教育ノ人類ニ必用ナルハ恰モ人ノ食物ヲ要スルト同一一般ナリ蓋シ其健康ヲ保シ性命ヲ維ギ長壽安樂ヲ得ント欲セバ必ズヤ食物ノ以テ口腹ニ充ツル者ナキ能ハズ而シテ其精神ヲ養ヒ思想ヲ發達シ事業ヲ務メ文明

ヲ進メ人類ノ幸福ヲシテ日一日ヨリ増加セシムル所以ノ者ニ至テハ必ズ教育ニ是レ由ラザルヲ得ズ一日食物ナケレバ則チ忽チ餓死セシノミ一日教育ナケレバ則チ混沌蒙昧ノ域ニ蠢々タランノミ均シク是レ人類ノ一身チ幸福ニス可キ者タリ而シテ人ノ梁肉ヲ食フト麥飯ヲ喫スルトハ各々其自由ニ任せテナガラ爾リ教育ニ至テハ此レ爲ス可シ彼レ爲ス可ラズ此ノ教育ハ善長從フ可シ彼ノ教育ハ不道學ヲ可ラズト云ヒ甲ハ其自由ニ任せ乙ハ其私事ニ干涉スルニ至テハ則チ處置其當ヲ得タルコ非ラザルハ昭々乎トシテ其レ明カナリ况ンヤ世ノ開進ハ文事ノ切磋琢磨ニ因ル者ナレバ若シ教育ニ干涉シ一定ノ教則ヲラシメバ彼此一法ニシテ敢テ切磋琢磨スル所ナシ又互ニ競争奮進ノ勇

氣ヲ欠キ遂ニ教育ヲシテ委靡衰頹セシムルノ不幸ニ陷ル
 可シ是ニ由テ之ヲ觀シテ干渉教育ノ不可ナル亦明カナリ
 既ニ然ラバ自由教育ノ可ナル亦以テ知ル可キノミ故ニ余
 輩ハ今日ノ教育ハ自由ナラシメザル可ラザル者トスルナ
 リ
 反對論者一人起立シ議長ト呼ソテ曰ク嗚呼發議者ノ自由
 ニ狂スルヤ甚ダシ夫レ今日ノ時勢ハ果シテ如何ナル者ト
 信ズルカ未ダ野蠻ノ遺風全ク脱セズ尙ホ舊ニ戀々タル者
 十ノ八九ナリ故ニ若シ今日ニシテ自由教育ヲラシメバ忽
 チ依然寺小屋流ノ教育ニ復ス可キ者過半タル可シ然ラバ
 我邦ノ開進ハ茲ニ淹滯ス可シ否ナ啻ニ茲ニ淹滯スルニ止
 マラズ却テ退歩スルノ不幸ニ陷ル可シ豈ニ其レ察セザル

可ケンヤ今夫レ一校内ノ生徒ヲシテ各々好ム所ノ書ヲ自
 由ニ讀マシメ更ニ一定ノ規則ヲ設クルヲナシト假定セヨ
 然ラバ果シテ其生徒ノ學業進歩ス可キカ否ナ決シテ其進
 歩スルヲナキハ之ヲ實地ニ試ミザルモ亦明カナル所ナリ
 既ニ然ラバ國家ノ各校ヲシテ自由ニ教育セシメバ其大小
 コト異ナレ其趣ハ敢テ異ナル所ナキニ非ラズヤ是ニ由テ
 之ヲ觀レバ今日ノ教育ハ于涉ナラザル可ラザルナリ

○性ハ善ナルカ將タ惡ナルカ
 發議者曰ク人ノ性ハ惡ナリ其善ナル者ハ偽ナリ今人ノ性
 生レテガラニシテ利ヲ好ムアリ是ノ故ニ爭テ生テ奪ヒ而
 シテ辭讓亡ブ生レテガラニシテ疾惡アリ是レニ順フ故ニ
 生テ殘賊ス而シテ忠信亡ブ生レテガラニシテ耳目ノ欲ア

リ聲色ヲ好ムアリ是ニ順フ故ニ淫亂生ス而シテ禮義文理
亡ナ然ラバ則チ人ノ性ニ從ヘ人ノ情ニ順ヘバ必ズ爭奪ニ
出テ犯分ニ合シ理ヲ亂シテ暴ニ歸ス故ニ必ズ將ニ師法ノ
化、禮義ノ道アラントス然レ後チ禮讓ニ出テ文理ニ合ス而
シテ治ニ歸ス此ニ由テ之ヲ觀レバ人ノ性惡タルヤ明ケシ
其善ナル者ハ偽ナリ故ニ木ヲ拘ル必ズ將ニ墜枯烝矯ヲ待
タントス然シテ後チ直シ鈍金必ズ將ニ鑿厲ヲ待タントス
然シテ後チ利シ今人ノ性惡必ズ將ニ師法ヲ待タントス然
シテ後チ正シ禮義ヲ得テ然レ後チ治ル今人師法ナケレ
バ則チ偏險ニシテ不正、禮義ナケレバ則チ悖亂ニシテ治マ
ラス諸君以テ如何ト爲ス乎

反對論者一人起立シ議長ト呼ンテ曰ク發議者ノ暴言ヲ吐

クモ亦甚ダシカラスヤ夫レ果シテ人ノ性ハ惡ニシテ其善
ナル者ハ偽ナルカ然ラバ堯舜ハ偽ニシテ桀紂ハ眞ナルカ
人ハ天ノ教ヘニ從フ可キトハ萬人ノ言フ所ニシテ敢テ疑
フ者ナリ去レバ人、天ノ教ヘニ從フコハ暴虐無道ヲ務メズ
ンバアル可ラザルカ豈ニ亦奇怪ノ至リナラズヤ夫レ性ハ
善ナリ其惡ナルガ如キ者ハ氣質ニ屬スル者ニシテ性ニ屬
スル者ニ非ラズ故ニ人ノ生ルニヤ當初無惡無欲純然タル
善性ナリ然ルニ漸ク星霜ヲ經ルニ從テ欲心ヲ生シ惡氣ヲ
發スルハ是レ社會ノ情勢ノ然ラシムル所ニシテ決シテ其
性ノ然ラシムル所ニ非ラズ若シ夫レ性惡ナリトセバ盜賊
ノ心中其盜賊ノ道ニ適フト云フト信ゼザル可ラザル筈
ナリ然ルニ如何ナル盜賊ト雖モ其心中ニハ必ズ道ニ非ラ

ズト思惟スルコト亦明カナリ去レバ人性ノ善ナル亦疑フ可
ラザル所以リナ

●第三編 文章

○第一章 記事

◎第一節 史傳

○豊臣秀吉鎌倉ニ遊ンテ源頼朝ノ塑像ヲ觀ル
豊臣秀吉關東ニ在ルヤ鎌倉ニ遊ンテ源頼朝ノ塑像ヲ觀、進
ンテ其背ヲ撫シテ曰ク君ハ我が友ナリ徒手天下ヲ取ル唯
ダ吾レト君トアルノミ然レハ君ハ名族ヲ承藉ス吾ガ人奴
ヨリ起ルニ如カズ吾レ遂ニ地ヲ略シテ明ニ至ラント欲ス
君以テ何如ト爲ス

○上杉謙信、武田へ義使ヲ送ル

武田信玄、國、海ニ濱セズ鹽ヲ東海ニ仰グ今川氏眞、北條氏康
ト謀テ陰カニ其鹽ヲ閉ツ甲斐大ニ困ル上杉謙信之ヲ聞キ
書ヲ信玄ニ寄セテ曰ク聞ク氏康氏眞君ヲ困マラシムルニ
鹽ヲ以テス不勇不義我レト公ト争フ所ハ弓箭ニ在テ米鹽
ニ在ラズ請フ今ヨリ以テ往鹽ヲ我國ニ取レ多寡唯ダ命ノマ
、ナリト乃チ賈人ニ命シ價ヲ平ラカニシテ之レニ給ス

○本多重次ノ憤言并ニ徳川家康ノ大度

豊臣秀吉ノ關東ニ至ルヤ徳川家康之ヲ聞キ兵ヲ留メテ來
會ス上國諸將ト皆ナ其次ギニ在リ本多重次事ヲ以テ來リ
謁シ後チヨリ罵テ曰ク咄主公此大怪事ヲ爲ス國ニ主タル
者豈ニ其城ヲ空フシテ人ニ假スアランヤ是ノ如クナレバ
則チ人或ハ夫人ヲ借ラント欲スレバ亦之ヲ許ス手且ツ罵

リ且ツ出ヅ諸將相視テ嘻フ家康、諸將ニ謂テ曰ク彼レ本多重次ナル者僕ノ舊臣ナリ僕幼時ヨリ從テ百戰ス僕亦之ヲ愛愍スルナリ然レ天質頑縱老ニ及ンテ益々甚ダシ今稠人ノ中ニ於テ僕ニ訴スル此ノ如シ諸公以テ其平時ヲ想フ可シ衆謝シテ曰ク此老ノ名ヲ聞ク久シ今乃チ見ルヲ得臣アリ此ノ如クナレバ眞ニ倚頼ス可シ

○鮑叔能ク管仲ヲ知ル

管仲少時常ニ鮑叔ト遊ブ鮑叔其賢ヲ知ル管仲貧困常ニ鮑叔ヲ欺ク鮑叔終ニ善ク之ヲ遇シ以テ言ヲ爲サズ己ニシテ鮑叔、齊ノ公子小白ニ事ヒ管仲、公子糾ニ事フ小白立テ桓公ト爲ルニ及ンテ公子糾死シ管仲囚ハル鮑叔遂ニ管仲ヲ進ム管仲既ニ用キラレ政ヲ齊ニ任ズ齊ノ桓公以テ覇タリ諸

侯チ九合シ天下ヲ一匡ス管仲ノ謀ナリ管仲曰ク吾レ始メ困スル時嘗テ鮑叔ト賈ス財利ヲ分テ多ク自ラ與フ鮑叔我レチ以テ貪ルト爲サズ我が貧チ知レバナリ吾レ嘗テ鮑叔ガ爲メニ事ヲ謀テ更ニ窮困ス鮑叔我レヲ以テ愚ト爲サズ時ノ利不利アルチ知レバナリ吾レ嘗テ三タビ仕ヘテ三タビ君ニ逐ハル鮑叔我レチ以テ不肖ト爲サズ我が時ニ遭ハザルチ知レバナリ吾レ嘗テ三タビ戰テ三タビ走ル鮑叔我レヲ以テ怯ト爲サズ我が老母アルチ知レバナリ公子糾敗ス召忽之レニ死ス吾レ幽囚セラレテ辱チ受ク鮑叔我レヲ以テ恥ナシト爲サズ我が小節ヲ羞ヂズシテ功名天下ニ顯ハレザルルチ恥ヅルチ知レバナリ我レチ生ム者ハ父母我レチ知ル者ハ鮑子ナリト鮑叔既ニ管仲ヲ進メ身ヲ以テ之

レニ下ル子孫齊ニ世祿シ封有アル者十餘世常ニ名大夫ト爲ル天下管仲ノ賢ヲ多シトセメシテ鮑叔能ク人ヲ知ルヲ多シトス

○張儀舌尙ホ在リ

張儀、鬼谷先生ニ事テ術ヲ學ブ己ニ學ンテ諸侯ニ游説ス嘗テ楚ノ相ニ從テ飲ス己ニシテ楚ノ相、璧ヲ亡フ門下張儀ヲ意フ曰ク儀貧ニシテ無行必ズ此レ相君ノ璧ヲ盜ムト共ニ張儀ヲ執ム掠奪數百スレモ服セズ之ヲ釋ス其妻曰ク嘻子書ヲ讀ミ游説スルヲナケレハ安ンゾ此辱ヲ得ンヤ張儀其妻ニ謂テ曰ク吾ガ舌ヲ視ヨ尙ホ在リヤ不ヤ其妻笑テ曰ク舌在リ儀曰ク足レリト遂ニ能ク秦ニ用イラル

○拿破崙一世壯士ニ遇フ

日耳曼ノ人拿破崙ヲ恨ム最モ甚ダシク之ヲ殺サント謀ル者アルニ至ル拿破崙一日出テ、兵ヲ點閱ス一少年アリ容貌美ニシテ温和ナリ拿破崙ノ前ニ至リ訴願スル所アル者ノ如シ從者之ヲ制シテ曰ク他時ヲ待テ少年固ク執テ聞カズ從者其刀ヲ懷ニスルヲ見ル即チ之ヲ捕フ既ニシテ拿破崙點兵ヲ終リ命ノ少年ヲ出サシメ之レニ謂テ曰ク汝ハ何處ノ者ヅビニノスニ在ル幾時ヲ答テ曰ク我レハエルヒユルトノ者二月以來ビニノスニ住メリ拿破崙曰ク汝何ヲカ欲スル答テ曰ク和約ヲ欲スルノミ拿破崙曰ク汝自ラ度ルニ我レ能ク汝輩ノ如キ君命ヲ奉シテ來ルニ非ラザル者ノ言ニ從フト思ヘル乎答テ曰ク汝我ガ言ニ從ハザルトハ汝ヲ刺サンノミ拿破崙曰ク汝我レニ何ノ恨ミカアル答テ曰

シ汝我國及ビ諸國ヲ困マシム汝和議ヲ講ゼザルハ天下
 萬民ヲ安ンズル獨リ汝ヲ殺スニ在ルノミ我レ汝ヲ殺スル
 ハ世ノ爲メニ大功ヲ立ツルナラン拿破崙曰ク汝ノ我ヲ殺
 サント謀ル豈ニ宗門ノ故ニ非ラズヤ答テ曰ク否ナ我が父
 ハ耶蘇新教ノ僧徒我が謀ヲ與リ知ラズ我レ敢テ人ト謀ヲ
 通ゼズ又人ノ言ニ從フニ非ラズ二年以來獨リ汝ガ心ヲシ
 テ變ゼシメント欲ス或ハ汝ガ死ナシテ望ム拿破崙曰ク汝
 ハ「フ」ラノマンソン「黨」ニ非ラズヤ答テ曰ク否ナ拿破崙曰ク
 フリユチエスノ事ヲ知ル乎答テ曰ク「ブ」リユチエスト稱ス
 ル者二人アリ後者ハ自由ノ爲メニ死セリ拿破崙曰ク汝モ
 「ロ」ー「ピ」セグリユノ黨ヲ結ビシヲ知ル乎答テ曰ク新聞紙ヲ
 讀ンデ之ヲ知レリ拿破崙曰ク此二人如何ナル人ト思ヘル

乎答テ曰ク彼輩己レノ爲メニ事ヲ企ツルノミ又死ヲ恐ル
 拿破崙曰ク汝畫像ヲ帶フ其婦人ハ如何ナル人ツ答テ曰ク
 是レ我が父ノ子トシ養フ所ノ女ニシテ後チ我が妻トナス
 可キ人ナリ拿破崙曰ク吁汝心ニ斯ノ如キ愛情ヲ懷キ而シ
 テ其愛スル所ノ人ヲ失フヲ恐レザル乎答テ曰ク我レ焉
 ノツ愛情ノ故ヲ以テ國事ヲ忘レシヤ拿破崙曰ク汝ガ心甚
 ダ壯烈ナリ然レモ我レ汝ヲ許サバ汝我レヲ殺サント欲セ
 シヲ悔ユル乎答テ曰ク我レ許サル、ヲチ欲セズ我レ甚ダ
 事ノ成ラザルヲ悔ユ汝若シ我ヲ許サバ我レ復タ間チ窺テ
 汝ヲ殺サント拿破崙之ヲ聞テ大ニ驚キ命ヲテ之ヲ引テ去
 ラシメ人ニ語テ曰ク是レ日耳曼國ヲ亂ス邪教ノナス所ナ
 リ然レモ兵力ヲ以テ之ヲ滅スルヲ能ハズト拿破崙少年ヲ

許サント欲ス然レモ少年食ヲ得ザル四日尙ホ固ク執テ屈
セズ故ヲ以テ遂ニ之ヲビエニ護送シ軍務裁判所ヲシ
テ審判セシメ之ヲ死刑ニ處ス少年刑ニ就クト大呼シテ日
ク願クハ暴主ヲ殺シ日耳曼ヲシテ自由ヲ得セシメント遂
ニ刑セラレテ死ス此人名ヲスタブト云フ拿破崙日耳曼ノ
スタブト其志ヲ同フスル者アルヲ悞ル故ニ墮ト和議ヲ講
ズル專ラ寛裕ヲ以テセリ

◎第一節 景記

○地球圖ヲ觀ルノ記

余地球圖ヲ緋キ亞細亞ヲ觀ル毎ニ未ダ嘗テ圖ヲ掩フテ嘆
ゼズンバアラザルナリ抑モ地球ハ五洲ニ分ツテ亞細亞殆
ンド其半バチ占ム天時温和地味膏腴其人聰穎古昔禮義ヲ

以テ自ラ尙ヒ富強ヲ以テ自ラ矜ル中世以後專ラ虛文ヲ事
トシテ實行ヲ務メズ終ニ今日ノ御歩ヲ致セリ然ルニ我ガ
日本國方今稍々文明ノ門戸ニ入リシハ實ニ幸ノミ圖ヲ廻
ハシテ歐羅巴ヲ觀ルニ之レニ反シテ其洲邦小ニシテ殆ン
ド支那一國ト其廣袤ヲ同フセリ天時冱寒地味礪确其人狡
猾之ヲ古昔ニ考フルニ蠢々野蠻唯ダ其民忍耐ノ力アルノ
ミ然ルニ中世ニ至リ文化日進遂ニ今日ノ隆盛ヲ致セリ又
圖ヲ廻ハシテ亞米利加ヲ觀其由テ來ル所ヲ顧ミルニ西班
牙ノ人閩龍ナル者輩出セルノ前ハ其洲ノアルトダニ天下
ニ知レザル所ノ新洲特ニ諸國ノ寄集リ人民英國ニ壓セラ
レ其苦ミニ堪ヘズ獨立シテ僅カニ百年而カモ文物ノ盛ナ
ル前古萬國其比ヲ見ズ嗚呼是レ何ニ由テ然ルカ夫レ富者

ハ其富ニ依頼シテ敢テ奮發勉勵耐忍ノ氣象ニ乏シキヲ以テ事ヲ成ス頗ブル難クシテ貧者ハ自然ノ以テ依頼ス可キ者ナキニ付キ勢ヒ奮發勉勵耐忍セザルヲ得ザルガ故ニ事ヲ成ス案外ニ易キ者アリ故ニ古來一事一業ヲ成シ天下後世ニ名ヲ傳フル者ハ多クハ貧者ニアリテ富者ニアラザルハ歴史ノ證スル所ナリ今夫レ亞細亞ノ土地膏腴ナルハ富者ニシテ歐羅巴亞米利加ノ地味礪確ナルハ貧者ナルニ非ラズヤ彼レノ文化ニ赴キ我レノ文化ニ赴カザルハ其レ此理ニ基クカ嗚呼幸ハ不幸ニシテ不幸ハ幸ナルカ余茫然タル者良久シ

○東京ノ記

東京ハ舊ト江戸ト稱ス徳川氏開府ノ地ニシテ維新以來帝

京トナレリ王城其中央ニ在リ墨陀、觀音、上野等勝地舉ゲテ數フ可ラズ且ツ市街繁榮ニシテ官衙盛大人目ヲ驚スニ足ル其商業熾昌士女雜沓ナル筆紙ノ能ク盡ス所ニ非ラズ實ニ日本ノ一大都會タルニ非ラズ實ニ東洋ノ一大都會他日亞細亞全洲ノ開明ニ赴ク者此地ヨリ傳播ス可シ嘻々至緊至要ナル地ト謂ハザル可ラズ然ラバ則チ苟モ亞細亞ノ人民タル者ハ此地ヲ開拓シタル者ニ謝セスンバアラザルナリ然ラバ此地ヲ開拓シタル者ハ誰レゾ即チ豐臣秀吉ナリ斯ク云ハゞ人或ハ余ヲ詰テ曰ノ是レ徳川家康ノ覇府ヲ立テシ處ナリ然ルニ之ヲ秀吉ノ然ラシムル所ナリトハ事實相違ノ言ナリト其レ然リ豈ニ其レ然ラシヤ按ズルニ外史ニ曰ク天正十八年四月秀吉諸軍ヲ率テ小田原ニ抵リ牙ヲ

○文章

石垣山ニ建ツ夜、萬卒ニ令シテ城ヲ築カシム紙ヲ壁ニ糊ス之ヲ望ム聖ノ如シ城兵驚テ以テ神ト爲ス秀吉、家康ヲ携ヘ城樓ニ登テ下視シテ曰ク關東八州我が目中ニ在リ日ナラズ取テ以テ卿ニ予フノミ家康拜シテ曰ク幸甚秀吉其耳ニ附シテ語テ曰ク卿亦小田原ニ居ル乎曰ク然リ秀吉曰ク不可我レ曾テ地圖ヲ觀ルニ此レヨリ迤東二十里ス可シ地アリ江戸ト曰フ山海ヲ襟帶シ地濶クシテ土肥ニ卿宜シク此レニ居ルベシ家康曰ク謹ンテ教ヘヲ奉ズト是レ江戸即チ今ノ東京ノ都府トナリシ所以ノ根原ナリ嘻々秀吉一言ニシテ東洋第一ノ都會ヲ開ク其功豈ニ亦大ナラズヤ

◎第二章 論說
◎第一節 政事

○天下終ニ公平ノ政治ナシ此ノ如キ表題ヲ掲ゲ來ラバ讀者ハ大ニ怪ム可シト雖此是レ決シテ怪ムニ足ラザルノ理ナリ夫レ最モ公平ニ近キ者ハ合衆政治ナリ然ルニ此合衆政治尙ホ且ツ公平ヲ失ス况ンヤ其他ノ政治ナヤ其公平ヲ失スル亦疑フ可ラザル所ナリ何ゾヤ合衆政治ニテ代議士ヲ撰舉スルハ投票ヲ用ヒテ多數ノ方ニ落票スルヲ法トス既ニ多數トアレバ一枚多キモ多數タル可キヲ亦言フヲ待タザル所ナリ去レバ萬一國中ノ人氣二組ニ分カルヘトアリテ百萬ノ人口ノ内ヨリ一組ヲ五十一萬人トシ一組ヲ四十九萬人トシテ投票スレバ撰舉ニ當ル人物ハ必ズ一方ニ偏シテ四十九萬ノ人ハ最初ヨリ國議ニ與ルヲ得ザル譯ケナリ又此撰舉ニ當リタル代

議士ノ數ヲ百人トシテ議院ニ出席シ大切ナル國事ヲ議定スルキハ又例ノ如ク起立ヲ用ヒテ其多數ノ方ヲ用ユルコトナリ去レバ若シ一方ハ五十一人ニシテ一方ハ四十九人ナルノ差ヲ生ズレバ是レ亦五十一人ノ多數ニ決セザルヲ得ズ然ラバ則チ此議決ハ全國人民中ノ多數ニ從フニ非ラズ多數中ノ多數ヲ以テ決シ其差極メテ少ナキ者ナレバ多數國民四分ノ一ノ心ヲ以テ他ノ四分ノ三ヲ制スルノ割合ナリ豈ニ之ヲ公平ト云フ可ケンヤ然ラバ政治ナル者ハ寧ロナキニ若カザルカ否ナ々々決シテ然ラズ若シ此政治ヲシテナカラシメバ弱肉強食尙ホ一層ノ不公平ニ至ラン畢竟政治ヲ國家ニ施スハ小不公平ヲ以テ大不公平ヲ防禦センガ爲メナリ豈ニ其レ之レナクシテ可ナランヤ必ズヤナカ

ル可ラザル者ナリ

○人民ニ適當スル政體

一個ノ政體ヲシテ人民ニ適當ナラシメシメハ三様ノ情勢ナカル可ラズ第一ニ制定スルノ政體ハ必ズ人民ノ悦ンデ之ヲ取用ス可キノ政體ナルヲ要ス假令悦ンデ之ヲ取用セザルモ其嫌惡妨害スルノ度政體建設ヲ危カラシムルガ如ク甚ダシキニ至ラザルヲ要ス第二ニ人民其政體ヲ悦ビ政府ヲ固定スルニ必要ナル事物ヲ爲シ遂ク可キノ要ス第三ニ人民其政體ヲ悦ビ政府ヨリ其建設ニ必需ナル諸事ヲ爲シ遂クゴトヲ求ムレバ人民能ク其事物ヲ爲シ遂ク可キノ要ス此三様ノ情勢アリ始メテ以テ其政體ヲシテ人民ニ適當セシムルコトヲ得可シ若シ其一チ欠カバ以テ之レニ適當

セシムルヲ能ハズ世ノ政府タル者注意セザル可ラザルナ
 リ
 ○代議士ハ高尙ノ人物ニ非ラズ
 突然敷カラ棒ニ此ノ如キ題號ヲ掲ゲ來ラバ讀者ハ驚ク可
 ク怪ム可ク終ニ予輩ヲ以テ徒ラニ暴言ヲ試ムル者ナリト
 云フ可ケレモ其レ此レ斯ノ如キ題號ヲ掲ゲ來ル所以ノ者
 ハ抑モ亦其說アレバナリ凡ソ人ノ見識ハ愈々高尙ニシテ
 愈々無識者ノ能ク了知シ得ザル者トス試ニ無識者ノ以テ
 好人物ト認ムル者ヲ見ヨ必ズ高尙ノ人物ニ非ラズ唯々門
 閥財産ニ富ム者カ若クハ威權アル者ニ限ルヲ知ル可シ故
 ニ夫ノ博ク一時ニ人望ヲ取ル者又ハ愚民ノ喝采ヲ得ル記
 者ノ如キハ其智識世人ト大ナル差違ナキヲ以テ衆庶ノ能

ク了知シ得ル所ノ者ニシテ迴カニ世人ニ超越シタル凡眼
 ノ達シ能ハザル高尙ノ人物ニ非ラザルナリ何トナレバ他
 人ノ器量ヲ鑑察スルハ多少思想ノ同シキ所アルニ非ラザ
 レバ能ハズ己レ其器ニシテ始メテ能ク他人ノ器字ヲ鑑別
 シ得可キヲ以テナリ故ニ最モ卓絶ナル士ガ若シ一般投票
 ノ法ニ依テ撰舉セラレソト希望スレバ到底其志ヲ得ル
 ノ機ナカル可シ假令一般投票ニ非ラズト雖モ投票者ハ學
 識ノ有無若クハ多少ヲ以テ定ムル者ニ非ラズ皆ナ土地財
 産ノ有無若クハ多少ヲ以テ定ムル者ナレバ此等ノ輩ノ撰
 舉スル人何ソゾ其レ好人物ナランヤ故ニ代議士ニ舉ガル
 人ハ必ズ高尙ノ人物ニ非ラズ平々凡々ノ人ニ少シク氣ヲ
 持ナタル者ナル可シ然ラバ國會ハ寧ロナキニ若カザルカ

否ナ決シテ然ラズ必ズヤナカル可ラザル者トス然レモ其
ナカル可ラザルノ理ニ至テハ之ヲ論ズル文ノ冗長ニ渉ル
ノ恐レアレバ之ヲ他日ニ譲リ茲ニ論局ヲ結ブテ爾リ

○立法者ハ非常ノ人物ナラザル可ラズ

天下ノ職任立法者ヨリ重キハナシ何トナレバ良法ヲ立ツ
レバ以テ萬民數代其利ヲ受クルモ不良法ヲ立ツレバ以テ
萬民數代其害ヲ受クレバナリ故ニ立法者タル者ハ必ズ非
常ノ人物ニシテ且ツ公平ノ人ナラザル可ラズ嗚呼立法者
タル者其任亦重イ哉

○法律ハ時勢ノ變遷ニ從テ變更セザル可ラズ

社會ハ活物ナリ法律ハ死物ナリ唯ダ其レ活物ナリ故ニ變
遷シテ止ムトナシ唯ダ其死物ナリ故ニ依然トシテ變ズル

トナシ夫レ死物ヲ以テ活物ヲ治ム唯ダ一時之ヲ用フ可シ
シテ決シテ常久ノ用ニ供ス可ラズ故ニ法律ノ一時ノ假具
タルヲ知ラズシテ千古一定ナラシメバ社會ノ進歩ハ決シ
テ望ム可ラズ假ニ進歩スルト爲スモ其間騷擾ノ絶ルトナ
カル可シ何トナレバ變遷止ムトナキノ活物ヲ以テ依然變
ルトナキ死物ノ範圍内ニ箝束スレバナリ蓋シ社會ニシテ
始終法律ノ範圍内ニ局縮屈伏セバ其進歩千萬年ヲ經ルモ
依然トシテ舊ニ異ナルトナカル可シ故ニ法律ハ時勢ノ變
遷ニ從テ變更セザル可ラザルナリ

◎第二節 學術

○造化ノ力ハ弱ク人間ノ力ハ強シ
造化ノ力ハ其外貌甚ダ勢力アルニ似タレモ其勢力限リテ

リテ増進セザル者ナリ若シ果シテ然ラザルモ吾人未ダ嘗
 テ造化ノ勢力ノ増進シタル證ヲ見ズ又其増進ス可キ理論
 ノ徴ス可キ者アルヲ見ザルナリ然ルニ人間ノ勢力ハ之ヲ
 試験ニ徴シ之ヲ理論ニ推スニ其勢力限りナク上進スル者
 ナリ且ツ人間ノ智力ニ區域アルノ證アルヲ見ザルナリ又
 心思ノ智巧ヲ長ズル勢力ハ獨リ人間ノ専ラニ有スル所ナ
 リ故ニ氣候ノ人ヲシテ力役ヲ勵マシ富ヲ致サシムルノ深
 キハ土地ノ肥潤、人ヲシテ勞セズシテ多ク物産ノ収獲ヲ得
 セシメ自ラ富殖ヲ致スノ幸福ニ比スレバ其進歩ノ功又偉
 大ナリト云フ可シ

○真理ヲ求ムル者ハ舊來ノ僻見ヲ去レ
 凡ソ確乎不拔ノ真理ヲ知ラント欲セバ先ヅ悉ク從來ノ僻

見テ捨テ虚心以テ之ヲ求メザル可ラズ先入ヲ主ト爲スハ
 人々幾ンド死ル可ラザルノ常情ニシテ笑フニ堪ヘタル僻
 論モ早ク心中ニ入りテ長ク斯ニ留ル時ハ該人終ニ是ヲ以
 テ正理ト爲スニ至ル而シテ舊染ノ所見ヲ捨ツルハ極メテ
 難ク非常ノ人才ニ非ラザレバ悉ク先入ノ僻見ヲ脱スル者
 ナシ故ニ人皆テ他人ノ舊弊論ヲ主張スルヲ笑フト雖ヒ己
 レモ亦舊見中最モ笑フ可キ者ヲ持論ト爲ステ知ラザルナリ
 又他人ガ習慣、風俗、教育ノ方、其利害、其愛好ノ趣ク所ニ因テ
 僻見ニ陥ルヲ笑フト雖ヒ己レモ亦是ノ數者ノ籠絡スル所
 トナリ他人ヨリ之ヲ見レバ恰モ我レ他ヲ見ルガ如ク甚ダ
 慙笑ニ堪ヘザル者アルヲ知ラザルナリ父母正シク其子ヲ
 知ル能ハス愚痴ナル子ヲモ伶俐ナリト思ヒ鈍兒ヲ才子ト

百
認ムルガ如キハ世人ノ徧ク知ル所ナリ人ノ己レヲ欺クハ
啗ニ父母其子ニ於ケルガ如キノミナラズ實ニ甚ダシキ者
アリ著述者ハ正當ニ其書ヲ判斷スル能ハズ文章家ハ其文
ヲ見テ前代未聞後來無比ノ明文ト爲スモ概テ然ラズ却テ
陳腐ノ文字タルヲ免レズ著述者能ク其著書ノ誤リアルヲ
知り其文ノ不充分ナル所アルヲ見文章家其文字ノ陳腐ナ
ルヲ知ルハ唯ダ是レ虚心平氣他人ノ著書他人ノ文章ト思
フテ之ヲ熟讀スルニ非ラズンバ能ハザルナリ畫工其畫ノ
醜所ヲ知ルハ既ニ其畫ヲ愛セザルニ至リシ時ニ非ラズン
バ能ハズ古語ニ曰ク惡シテ其美ヲ知ルト今日世人ノ行爲
モ之レト同シク凡眼常目ノ之レガ善惡ヲ區分スルヲ得ル
ハ他日其前行ヲ悔ユルニ至ラザレバ能ハズ後世ノ人ト雖

百
用必ズ其誤ラル、ヲ知ルナリ數百年ノ前ニ在テ此地球ニ
生息シタル人々ハ皆當時社會ノ景況ヲ完全無缺極善至美
ノ景況ト爲セシニ非ラズヤ所謂眷戀以テ之ヲ見レバ痘痕
モ歴ト見ユルトハ幾ソド是等ヲ云フナリ故ニ人若シ正理
ノ在ル所ヲ求メントナラバ勉メテ其習慣風俗ニ眷戀スル
心ヲ止メ虚心ニシテ理ヲ推サハル可ラズ然ラズンバ痘痕
ヲ以テ歴ト認メザル者ハ甚ダ希レナル可シ噫

○甲越ノ戦争果シテ勝敗ナキ乎
誰カ甲越ノ戦争ニ勝敗ナシト云フヤ滔々タル天下ノ人皆
ナ甲越ノ戦争ニ勝敗ナシト云ヘモ是レ皮相ノ見ニシテ深
ク其事實ヲ究メザル者ナリ成程皮相ハ上ニ於テハ敢テ勝
敗ナキ者ノ如シト雖モ謙信ハ常ニ八千ノ兵ヲ以テ戦ヒ信

百二
玄ハ常ニ二萬ノ兵ヲ以テ争フ去レバ若シ同一ノ軍勢ヲ以テ戦ヒタラシムニハ謙信ノ力ハ倍ス可キヲ數ノ當ニ然ルベキ所タリ况シヤ信玄ハ名將ヲ失フヲ多ク且ツ自ラモ謙信ノ爲メニ傷ヲ受ケタルニ於テチヤ又况シヤ謙信ハ常ニ敵地ニ進入シテ敢テ恐レザルニ於テチヤ若シ之ヲシモ勝敗ナシト云ハバ天下ノ戦争亦勝敗アル者ナシ試ニ甲越ノ軍記ヲ緋ヲ見ヨ皮相ノ上ニ於テハ敢テ勝敗ナキ者ノ如シト雖モ其内實ニ入テ之ヲ窺ヘバ謙信ノ勝ニシテ信玄ノ敗ナル陰然トシテ現ハレ亦掩フ可ラザル者アリテ存ス嗚呼謙信義ニシテ信玄暴ナリ甲越ノ戦争ニ勝敗ナシト云フ輿論三百年ヲ涉リテ動カス可ラザルカ如キ者モ今日予輩ノ筆ヲ以テ其勝敗アルヲ論明スルニ至ル是レ豈ニ天耶

○大事ノ成功ハ不幸敗事ノ後ニ在リ
凡ソ大事ハ其成功ニ先ダテ必ズ之ガ爲メニ千百ノ不幸敗事アリ以テ世人ノ耳目ニ顯ハレザル者アリ其成功ハ成功ノ日ニ生ズル者ニ非ラズ蓋シ功ノ成ル成ルノ日ニ成ルニ非ラズ必ズ由テ來ル所ノ者アリテ存ス凡ソ天其希望スル所ヲ遂ゲントスルヤ必ズ先ツ志士ノ精力徳儀ヲ徒ラニ費ヤサシメ終ニハ貴重不可價ノ人命ヲモ之レガ爲メニ失ハシムルニ至リ其計謀ハ盡ク齟齬シ其傳記サヘモ後世ニ傳ハラズ意志高尚ナル烈士モ舉事盡ク失誤シ万ニ一ヲモ僥倖ス可キノ形勢ナキヲ見テ憮然トシテ唯々時勢ヲ恨ミ其宿志ヲモ放擲シタル後ニ至リ初メテ其功ヲ成サシムル者ナリ故ニ大事ヲ企ツル者ハ假令其事齟齬失敗スルトモ

之レニ屈スルコトナク益々憤進敢爲ノ氣ヲ發起セザル可ラザルナリ

○事物ノ定則ヲ知ルノ法

事物ノ定則中或ハ一目ニシテ之ヲ知ル可キ者アリ又或ハ熟閱尙ホ且ツ知ル可ラザル者アリ然レモ之ヲ知ル明法アリテ存ス何ゾヤ一時一處ニ於テ知ル可ラザル者モ長キ星霜ト廣キ土地トニ就テ之ヲ察スレバ其働キニ定則アルコト實ニ驚ク可キ者アリ乞フ其例ヲ示サシニ犯罪ハ人ノ心ノ働ナリ一人ノ身ニ就テ之ヲ見レバ固ヨリ其働キニ規則アル可ラスト雖モ其國ノ事情ニ異變アルニ非ラザレバ罪人ノ數ハ毎年異ナルコトナシ譬ヘバ人ヲ殺害スル者ノ如キハ多クハ一時ノ怒リニ乘ズル者ナレバ一人ノ身ニ於テ誰カ

豫メ之ヲ期シ來年ノ何月何日ニ何人ヲ殺ント自ラ思慮スル者アラソヤ然ルニ佛蘭西全國ニ於テ人ヲ殺シタル罪人ヲ計ルニ其數毎年同様ナルノミナラズ其殺害ニ用ヒタル器ノ種類マデモ毎年異ナルコトナシ尙ホ是レヨリモ不思議ナルハ自殺スル者ナリ抑モ自殺ノ事柄タルヤ他ヨリ命ズ可キニ非ラズ勤ム可キニ非ラズ欺テ之レニ導ク可ラズ劫シテ之ヲ強ユ可ラス正ニ一心ノ決スル所ニ出ツル者ナレバ其數ニ規則アラソトハ思フ可ラス然ルニ一千八百四十六年ヨリ五十年ニ至ルマデ毎年倫敦ニ於テ自殺スル者ノ數多キハ二百六十六人少ナキハ二百十三人ニシテ平均二百四十人ヲ定リノ數トセリ故ニ此法ヲ以テ事物ノ定則ヲ究ムル亦容易ノ業ナリ

○第三章 滑稽

○脚氣のマシナイ

イヤ熊あへ久しぶりの御出でマア此方へ時よ熊やおい等の
 近日成田へ行てこようと思ふが手前へ行氣はないか、行
 く氣のないどころじやない行きたいどの思ひども近頃脚
 氣よて行くことが出来ない此れよの大困却さ、何よ脚氣だ
 と其りやぢうさもないことだおい等がマシナツテ遣るわ、
 へイ手前がマシナイば直ぐよ治するかへ其れじや一寸マ
 シナツテ呉れ、好志熊や其れじや其處で獨角力を取れ、へイ
 獨角力を取るのが脚氣のマシナイかね何んだろ可笑いわ
 へ、何にも可笑い事のない其れが忌やならマシナツテ遣る
 譯けよや行かないせ、其れじや仕方がない獨角力を取らん

と熊公右手を以て首を掴み左手を以て足を取りヨンヤヨ
 ンヤと獨角力を始めれば八公傍らの團扇を持ち起ち揚が
 つて曰く簡氣よんやな直をい、

○禁酒の妙法

イヤハや善い所へ來たサアマア此方へ揚がりや今吉と一
 猪口始めた所じや一盃飲みや、へイ難有うの五座りますれ
 ども此間不動尊へ禁酒したのでいけません而かも其年限
 の三年まだ先の長きことなれ、當分先づ失禮、ナニ禁酒
 をしたとな其りや窮屈なことをしたるもの哉酒飲みが晝
 夜三年の間酒を禁じてたまる話じやない八や其れにや善
 い工夫があるわ、へイ其善い工夫とハどんな工夫だね、そハ
 別の工夫よもあらねども手前の禁酒の晝夜三年とのこと

なれば夜を禁じて晝を許し更二年を延べて六年とせば其れよて時間と同じことなれば左様と致せよ、こりや善い工夫だ熊や其れじやそり致そりと云ふよ吉公傍にあり熊の工夫の善き工夫なれども此れよ今一層明工夫あり熊の八が三年の禁酒を夜禁じて晝許し更に延べて六年とすべしとのことなり去れよ其の理を推し擴めて晝夜共と許し更延べて十二年とせば其れよて可らん熊八兩人此りや吉の考への明案だそり致せ、そり致そりと其より三人よて一盃一盃又一盃ガブ〜

○老妓の頓智

雛妓誤て客の前よ於て失屁す老妓之を他室よ招き責めて曰く客の前よ於て失屁す無禮の甚だしき焉れより大なる

のなし以來慎むべし尤も出もの腫もの處嫌はずとのことなれば若し屁の出でんとするときは踵を以て之を防ぐべしと其状を示せしよ運こそ悪しかりけん忽ち一發の失屁を放ちたり時よ老妓の言に曰く踵を以て防ぐ少しく其處を外つせば此の如し大に外つせばお前が先きよせしが如し随分共よ慎まるべしと

○第四章 小説

○肝が潰ぶれて五坐なく候

徳川三代將軍家光氏此頃乃有名なる滑稽家大久保彦左衛門或時松平某屋敷に到りしよ折りしよ某眼病よ罹り困難の體にて彦左衛門よ向ひ何んよ善き薬あると尋ねしよ彦左衛門曰く其よには善き薬の候なり即ち人間の生肝を

百十
り、ハ、一人間の生肝が眼病の大妙薬とナるハ忝なくは候
得ども其品は容易と得難きものなれば此れハ困却致志
たり彦左衛門曰くろは譯けもなきことかり拙者の屋敷に
之れあり候得ば五進呈仕らん、ハ、貴殿の屋敷と生肝之れ
ありとナ左らば後刻貫ひと遣ハさんと馳て時刻を遷して
交址焼の壺を持たせて例の生肝を彦左衛門の屋敷と貫ひ
と遣ハせしと彦左衛門其の壺の善きと付き之を己れの方
と取り置き他の粗悪なる壺と換へ内に一封の書状を入れ
て歸せり某を借てころ生肝の來りしと思ひ壺の蓋を開け
て見れば豈に圖らんや生肝おあらで一封の書状あり怪ん
で之を開き見るよ左の文句あり曰く餘り至急の五用で肝
が潰ぶれて五坐おく候

○曾呂利々々々新左衛門々々々々
曾て曾呂利新左衛門始めて太閤の御前と出でたりしに太
閤問ふて曰く其方の姓名ハ何と申すや對て曰く曾呂利
新左衛門とぞ申候なりと他日又太閤と謁す太閤問ふて曰
く其方の姓名ハ何と申すや對て曰く曾呂利々々々新左
衛門々々々々と聞て太閤怪んで其重言の所以を問ふと新
左衛門曰く先きと殿下臣と問ふと其姓名を問ふ故に曾呂
利新左衛門と對ふ然るも殿下復た再び臣の姓名を問ふ故
と臣も亦重言を以て曾呂利々々々新左衛門々々々々と
對へ奉りしなり是れ殿下の言と從ふものよて候太閤曰く
ナルホドイカ様左様か余が悪しかりしぞ

○一休和尚の妙智

一休和尚と蜷川新左衛門との共に滑稽家にして朋友たり
 蜷川の一休が許に来るや毎度革羽織を着して来るを例と
 するよ由り一休以爲らく如何よして蜷川を困却せしめん
 ものをと案じ付て門口に標記して曰く獸革を身に纏へた
 る者の穢らしきに付き我が宅に入る可らずと所へ蜷川
 新左衛門テッくヤッて来りしよ此の標記あり去れど意
 とせずして頼モ一の聲を掛けたりしよ一休出で来り蜷川
 革羽織を着して居りし故標記を見候はずやと詰る蜷川曰
 く子の家にも亦獸革を身纏へたるものあり故も我れも
 亦此よ來る即ち彼の太鼓なり一休曰く彼の太鼓の我が家
 法よ背くを以て日々神撥を當て居なりと一鎗やり込め
 られて蜷川残念よ思ひ何よか返鋒をなさんずものをもと思

慮を廻らし案じ付きたる一事の蜷川の家よ來るよの橋を
 渡らざれば來ること能わざるを以て橋よ標記して曰く此
 はし渡る可らずと所へ一休和尚やつて來れば則ち此標記
 あるよ由り其の文中のしよ濁を加へじとなき此はト渡る
 可らず改めて蜷川の屋敷よ入りけれの蜷川之を見て標記
 を犯すを咎む一休曰く此はト渡る可らずと記してあるを
 以て中央を通りて來り候

○慘酷にもあれ又笑止千萬よもあれ

昔一**百耳社**王一日山野に遊獵し所獲の獸頭數百の多きよ
 至れり王工人よ命乞て之を圓錐形よ積まじむ工人命に従
 て之を積み將さよ成らんとするに及び頂上よ戴す可き一
 大頭を求むれども得る能はず之を王よ諮る王曰く汝の頭

ころ適當なれどて終に無辜の良民を殺戮其頭を以て圓錐形の頂上と供せりとあん嗚呼慘酷もあれ又笑止千萬にもあれ

○人猿の戦争

百耳社ヘリスヤの山林は多く産する菓物にて盒桃と云へる桃あり佳麗の喬木にして其幹間々百二十尺に達するものあり其實は十二粒若くは二十粒あり合して一束と木質の堅殻を以て密に之を包藏す其殻殆んど圓なり然れども較々梨子の形に似たり量重く質堅き故に其成熟は秋に至れば行人此樹下を往來するは甚だ危険の事とす人頭堅厚なりとも未だ此果粒の墜打を受けて其傷損を免かるゝに足らず此殻の頂圓圓形の蓋あり時よ至て開綻す一殻地と墜て直ち

に其口を開くや時として群猿之を合圖として囓集し相戯れて一大戦場の奇觀を呈し來る先づ數百樹の上に衛兵を備へ而して直ちに群集して捲伸自在の尾を以て手足の用を助け樹又樹に移り終に要衝の戦地と達し其熱望する所の盒桃を争ふて互に烈戦激闘を起す印度土人ハ此時に乗じて盒桃を獲るの一奇策あり故らに石を以て群猿に投擲すれば群猿怒りて盒桃を雨注し以て之れに應ず連戦の末印度人の巨額ニウの盒桃を獲て集めて之を小舟に裝積し更之を巨船に搭載す獨り英國に輸入する盒桃のみを以ても年々五萬「ブセル」に下らずと云ふ

○欣喜極て斃る

昔者米國獨立戦半ばにして華盛頓ワシントン、紐約ニウヨークに於て英將華理斯ワトソン

よ勝ちし時同盟十三州捷聞を相傳へ拵躍相賀して曰く圖
らざりき眼よ此の一大盛事を見るあらんとハど或ハ泣を
垂る者あり費勸持費國會國民を會し鐸鈴を鳴して之を祝
す一老門卒あり之を聞き喜ぶこと限りなく遂に斃れたり
人にて過喜情を傷ぶるの致す所と爲せり

演說
論說
文章

記事論說種本

附滑稽小説種本

終

明治十八年一月七日御届
同 十八年二月七日出板

定價金五拾錢

編輯兼出板人

埼玉縣平民

吉田正太郎

神田小川町九番地

發兌元

神田小川町九番地

秩山堂支店

神田淡路町二丁目

秩山堂

神田美土代町三丁目

穎才新誌社

出版書目概表

東京諸大家先生閱吉田正太郎編輯
 演說 附稽小說種本 定價金五十錢 郵便税金拾錢
 文章 附稽小說種本 定價金五十錢 郵便税金拾錢
 世ニ種本アレ共未タ完全ノ書ナシ本書ハ
 表題ニ掲ケタガ如ク質ニ完全無缺ニシ
 テ且ツ其種新確實ナル種本ノ最モ良書ナ
 リ
 料理店○青陽樓主人校閱吉田正太郎編輯
 日本 支邦料理獨案内全 定價金五十錢
 西洋 附禮式及食事法 郵便税金十錢
 此書ハ婦女子ニモ解シ易ク詳ニ各料理ノ
 献立禮式及食事方其他料理ニ關シタルコ
 ハ漏レナク記載シ且ツ青陽樓主人ノ校閱
 ナハ歴シ者ナレハ世間通情ノ書トハ大ニ異
 ナル珍書也

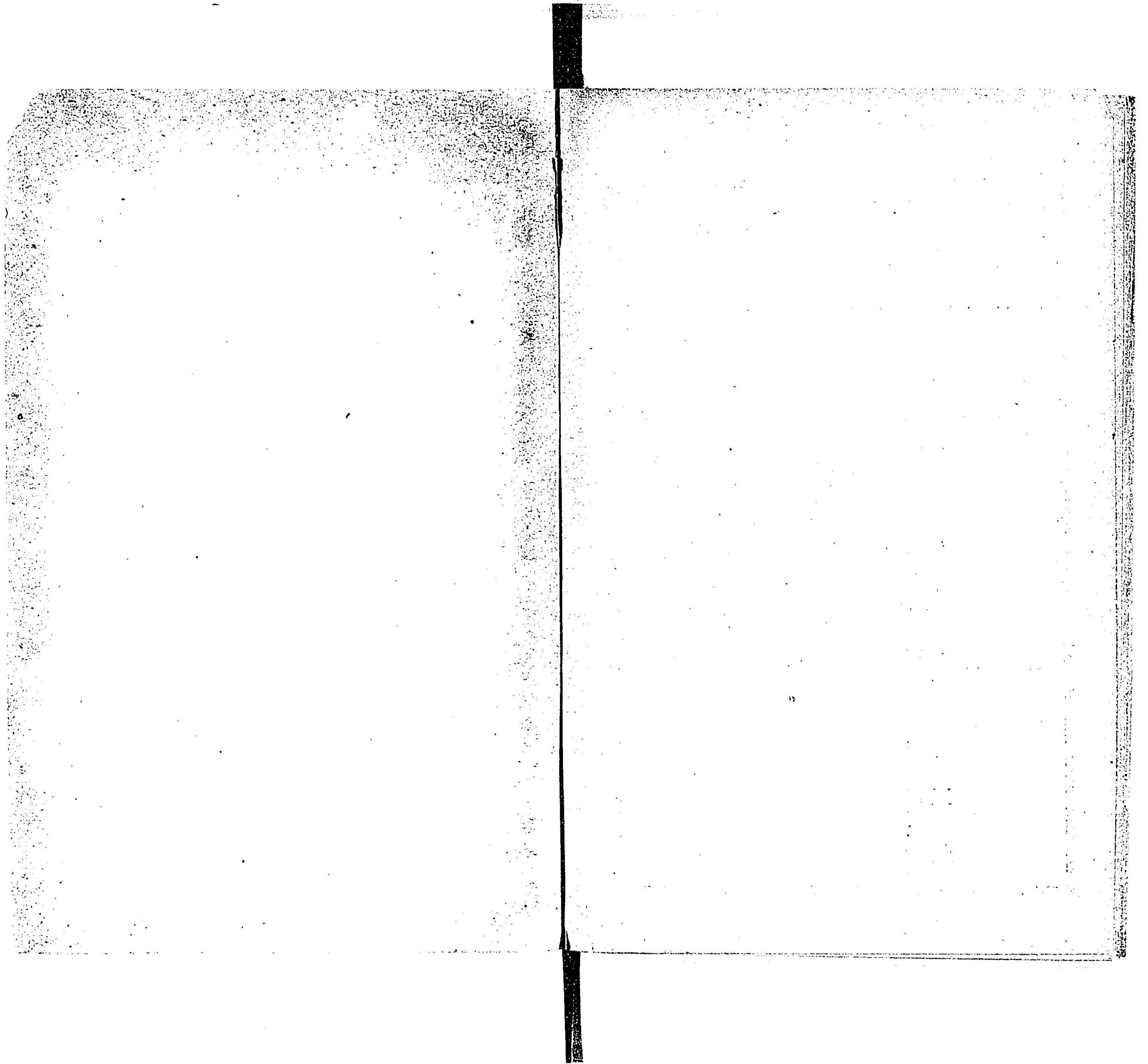
○歐米各國 確言集全 定價三十錢 郵便税金六錢
 此書ハ歐米各國政治及法律ノ長短ナル確
 言ヲ集鬼セシ者ナレハ政治法律ニ志アル
 者ハ一讀ス可キ最良書也
 ○官用簿記例題全 定價金二十錢 郵便税金六錢
 東京諸大家先生口述 近刻
 小學論說記事簡牘種本
 客と 娼妓狂詩題都々逸 定價十五錢 郵便税金四錢
 附花柳事情
 此書ハ各所ニ花柳ノ原因及方今ノ景燈ナ
 詩文亦ハ狂詩ヲ題ニシテ逸等ヲ集メ
 タル珍書ナリ
 堀口昇厚黒岩大譯
 ○政体各論全 定價金五十錢 郵便税金八錢

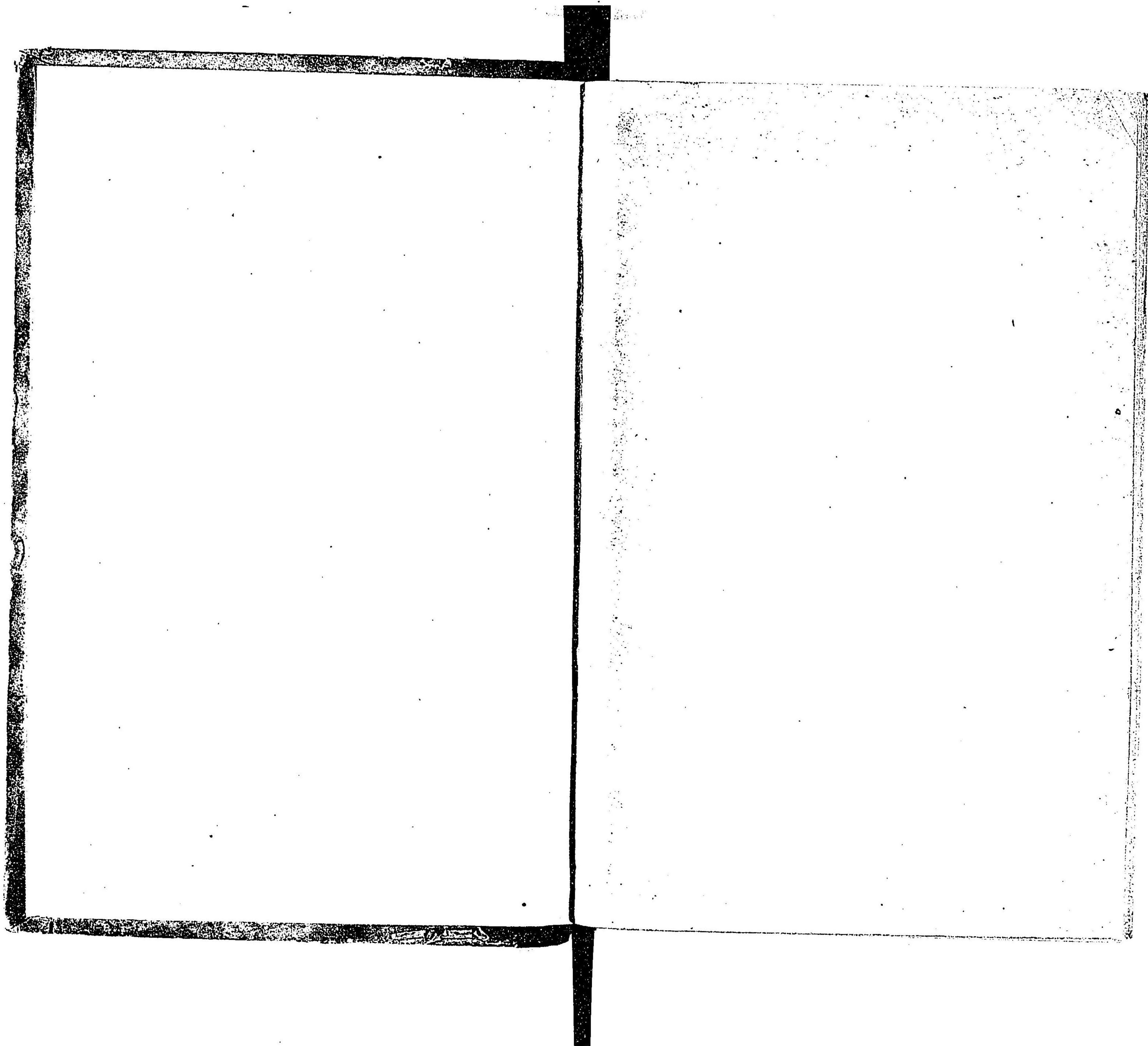
東 京 專 賣 書 肆

丸山	善市書兵	中城中倉字	々々	生笠田木野	法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
衛店閣	誠助郎	太兵本	支本	鐵論社	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
山城屋	治伊兵衛	三書三	芳成屋	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
石川	佐兵衛	三書三	屋盛新春	岡藤	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
北陽	社堂	堂堂	助七衛	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
春陽	社堂	堂堂	助七衛	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
盛陽	社堂	堂堂	助七衛	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
關文	堂堂	堂堂	助七衛	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
澤二	堂堂	堂堂	助七衛	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
集中	太店	三書三	芳成屋	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
内加	太店	三書三	芳成屋	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
静辻	太店	三書三	芳成屋	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
修静	太店	三書三	芳成屋	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
長修	太店	三書三	芳成屋	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
信長	太店	三書三	芳成屋	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
學信	太店	三書三	芳成屋	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷
栗木	太店	三書三	芳成屋	田西屋	廣大氷法内小東東興國巖萬大山山兔東霞丸山	博鶴廣大氷

其他各書林ニ有リ

自須	原由	梅屋	川原	忠春	土屋	米倉	青木	高中	倉高	三倉	高倉	有倉	松有	岡有	松有	吉有	別有
須由	原由	梅屋	川原	忠春	土屋	米倉	青木	高中	倉高	三倉	高倉	有倉	松有	岡有	松有	吉有	別有
須由	原由	梅屋	川原	忠春	土屋	米倉	青木	高中	倉高	三倉	高倉	有倉	松有	岡有	松有	吉有	別有
須由	原由	梅屋	川原	忠春	土屋	米倉	青木	高中	倉高	三倉	高倉	有倉	松有	岡有	松有	吉有	別有





東 京 圖 書 館

新書門

部

六

類

函

架

號

冊